520号
|
181号

民事訴訟法議案

二六三八

第二

民事訴訟法~~改正案~~議案

司法省記録文庫
保
第七百七十六號

第六號
第五架
第四

司法省
（二六）第三八號
寄贈圖書文庫

zB500
M3-1
T.C.

未十九日 [illegible]

辰年ノ伯父江学業ニ付[illegible]

三十人ノ筆 [illegible]

[illegible]

明治廿七年七月十七日

[illegible]

XB500
M 3
1

1

民事訴訟法草按議案第三十六號

第五百二十條　請求ノ主張カ或ル~~暦~~時日ノ到来ニ繋ルトキハ其~~暦~~時日ノ満了シタル~~后~~後ニ非サレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得ス

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繋ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ關スル公正ノ裁判所ノ證明書ヲ提出シタル後ニ非サレハ其執行ヲ始ムルコトヲ得ス

第五百二十一條　現役ノ軍人軍属ニ對シテ為ス強制執行ハ其上班ノ軍事官廳ニ[redacted]トノ通知ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス

軍事官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知書ノ受取

證書ヲ付與ス可シ

第五百二十二條　強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ定メ有ラサル限リハ執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲メ區裁判所ノ裁判所書記ノ補助ヲ求ムルヿヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百二十三條　執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リ行爲ヲ爲シ且職務上ノ義務違背ヨリシテ債權者及ヒ其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタル𪜈ハ第一着ニ其責ニ任ス

第五百二十四條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタル𪜈ハ執達吏ハ

特別ノ委任ヲ受ケサル𪜈ト雖モ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有効ニ受取ノ證書ヲ作リ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタル𪜈ハ債務者ニ執行力アル正本ヲ交付スルノ權利アリ

第五百二十五條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルノミニ因リテ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スルノ權利アルモノトス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルヿヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ當事者ノ求ニ因リ資格ヲ證スル爲メ之ヲ提示ス可シ

第五百二十六條　執達吏ハ債務者其義務ヲ完全ニ盡シタル片ハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證書ヲ之ニ交付ス可シ又其義務ノ一分ヲ盡シタル片ハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且其受取ノ證書ヲ債務者ニ付與ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證書ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルヽヿ無シ

第五百二十七條　執達吏ハ執行ノ目的ニ付キ必要トスル場合ニ於テハ債務者ノ住居倉庫及ヒ筐匣ヲ捜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉室扉及ヒ筐匣ヲ開カシムルノ權利アリ

抵拒ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井

且警察上ノ援助ヲ求ムルヿヲ得若シ兵力ヲ要スル片ハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百二十八條　執達吏ハ執行行為ヲ為スニ際シ抵拒ヲ受クル片又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ為スニ際シ債務者又ハ其成長シタル家族若クハ雇人ニ出會ハサル片ハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百二十九條　強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ展閲ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルヿヲ要ス

第五百三十條　日出前日没後ノ時間及ヒ日

曜日并ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルニ非サレハ執行行為ヲ為スコトヲ得ス」

「其許可ヲ與フル命令書ハ強制執行ノ際之ヲ提示ス可シ

第五百三十一條　執達吏ハ執行行為ニ付キ直チニ調書ヲ作ル可シ

其調書ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所年、月、日

第二　執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル情況ノ畧記

第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四　右各人ノ署名捺印及ヒ調書ヲ當事者ニ読聞セ又ハ閲覽ノ為メ之ニ提示シタルコト及ヒ其承諾ノ後署名捺印アリタルコトノ明示

第五　執達吏ノ署名捺印

第四号ニ掲ケタル要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ明示ス可シ

第五百三十二條　執行行為ニ屬スル催告及ヒ其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ為シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ為スコト能ハサルトキハ第百三十七條第百三十八條及ヒ第百四十三條乃至第百四十七條ノ規定ヲ準用シテ調書ノ謄本ヲ送達シ又特別ノ送達證書ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達アリタルコトヲ

記載ス可シ

若シ送達ヲ強制執行ノ地ニ於テモ又執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ為スヿ能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且郵便ニ之ヲ交付シタルヿヲ調書ニ記載ス可シ

（旧第六百四十六　独第六百八十四）

第五百三十三條　此法律ニ於テ裁判所ニ任セタル執行行為ノ余又ハ其行為ノ補助ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ属ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ為ス可キ地又ハ之ヲ為シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ経スシテ之ヲ為スヿヲ得

（旧第六百四十八　独第六百八十五）

第五百三十四條　強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ関スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス執行裁判所ハ第五百十三條第二項ニ定メタル余ヲ発スルノ権アリ

執達吏カ執行委~~員~~任ヲ引受クルヿヲ拒ミ若クハ執行行為ヲ委任ニ従ヒテ實施スルヿヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セル手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ其裁判ヲ為スノ権アリ

[illegible]

民事訴訟法草案議案第三十六号修正ノ理由

○第五百二十条本條ハ「裁判上」トアルヲ「裁判所」トㇾ改メタルマテニテ餘ハ原文ノ儘

○第五百二十一条本条ハ旧第六百二十六條ノ精神ヲ取リ第十一條第百三十七條及ヒ第百五十二条等ニ準シ修正シタリ勿論他日陸海軍省ト協議ノ上右数條ト共ニ再修正ヲ為スヘキヤ意見ナリ

○第五百二十二条第三項ハ原文ノ儘而シテ新タニ二項ヲ加ヘタルハ債権者カ裁判所書記ニ依リ執達吏ニ委任スル手續ヲ設クルハ必要ト思考スレハナリ旧第二項ハ新事項ヲ加ヘ数項ニ渉ルノミナラス少シク手續モ相離

ル、ヲ以テ之ヲ別條ト為シタリ

○第五百二十三條原文「且」以下ヲ本文ノ如ク修正シタルハ「シュルツェシスタイン」氏ノ意見ヲ取リ執達吏カ職務上ノ義務違背ヨリ損害ヲ生セシメタル件ハ第一着ニ責ニ任スヘキヿヲ明カニシタルモノナリ

●第五百二十四條原文ノ冒頭「強制執行云々」ノ三十六字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ語路ヲ改メタルニ過キス也「訴訟代人云々」ヲ削リタルモ其代人ハ債権者トアル中ニ包含スルノ精神ナリ

○第五百二十五條原文ヲ二項ニ分チ而シテ第一項ノ末ニ「債権者云々」ノ数字ヲ加ヘタルハ

權限ヲ明カニシタルモノナリ

○第五百二十六條第一項中ニ「及ヒ受取ノ證書」ノ七字ヲ加ヘ及ヒ第一二項中「領收證書」トアルヲ「受取ノ證書」ト改メタルハ第五百二十四条ニ做ヒタリ

○第五百二十七条第一項中「谷貯藏所」ノ四字及ヒ「家屋云々職工ヲシテ之ヲ」マテ三十八字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ執達吏ノ注意等ニ係ルヿハ細則ニ譲リ必要ノ事項ノミヲ掲ケ場合ヲ明カニシタリ第二項ノ「然レ氏以下云々」ヲ改メタルハ郡區長及ヒ戸長等ノ職制ハ改正可相成且郡區長ノ如キ吏員ヲシテ執行ニ立會ハシムヘキヿハ実際上行ハレカタキ

ヿト思考スルヲ以テ之ヲ修正シタリ

第三項ハ「ミュルウェンスタイン」氏ノ意見モアリ且元来不完全ナル法文ナルニ付キ之ヲ修正シテ別条ト為ス

○第五百二十八条　本条ハ獨訴訟法ニ依リ全ク修正シタルモ原文ノ精神ハ自ラ包含ス

○第五百二十九条　本条ハ旧第六百四十条ノ末項及ヒ旧第六百四十四条ノ末項ノ精神ヲ取リ獨訴訟法ニ做ヒ茲ニ新条ヲ加ヘタリ

○第五百三十条　原文中「日曜」トアルヲ「日曜日」ト為シ「普通」ヲ「一般」ト改メ「明許」トアルヲ「許可」ト改メタルハ先例ニ做ヒタリ

○第五百三十一条原文中第一号ノ「争訟標目」トノルヲ「證書ヲ作リタル場所年月日」ト改メ第二号ヲ削リ旧第三号ヲ第二号ト為シ旧第四号ヲ第三号ト為シ旧第五六号ヲ併セテ第四号ト為シ「及ヒ」ノ二字ヲ加ヘ新タニ第五号ヲ設ケ第三項中「五号」トアルヲ「四号」ト改メ「及ヒ第六号」ノ五字ヲ削リタルハ先例ニ做ヒタルモノナリ末項ハ第五百二十九条ヲ設ケタル結果ニテ之ヲ削リタリ

○第五百三十二條第一項ハ原文ノ儘第二項中「署名捺印云々」ノ十四字ヲ削リタルハ総則中即第百三十五條ニ自ヲ認證ノ謄本ヲ送達スヘキヿノ規定アルヲ以テ茲ニ必要ヲ見サルカ故ナリ其他数字ヲ改メ或ハ「且」トアルヲ「又」

今

ニ改メ「限リ」トアルヲ「迄」ニ改メ「ハ原本」ノ三字ヲ削リタルハ従前修正シ来リシ結果ナリ第三項中「ガ」トアルヲ「ヲ」ニ改メ「サル」トアルヲ「ス」ニ改メ「ハ原文」ノ三字ヲ削リタルハ前項ノ理由ニ同シ「第七百四十條云々留保セテ」ノ十七字ヲ削リタルハ該條ヲ修正スヘキ意見アルヲ以テナリ

○第五百三十三條　第一項ハ原文ノ儘第二項ハ先例ニ倣ヒ「ハ為サル」トアルヲ「ヲ為ス」ト改メタルニ過キス第三項中括弧ノ内ニ「命令」トアルハ必要ナラサル故此括弧共ニ之ヲ削リ又「豫メ」ノ二字ヲ削リ「發スル」トアルヲ「為ス」ト改メタルハ先例ニ倣ヒタリ

○第五百三十四條原文第一項第二項ハ少シク不完全ナル所アルカ故獨訴訟法ニ倣ヒ本文ノ如ク修正シタリ原文第三項ハ其侭之ヲ第二項ト為ス

其書之體[illegible]論議之[illegible]
政事論法律學經濟學等
三十七篇[illegible]
[illegible]也
明治廿一年七月廿日
[illegible]

民事訴訟法草案議案第三十七號

第五百三十五條　判決ニ因テ確定シタル請求其ニ関スル債務者ノ異議ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結シタル後義務ノ理由タル事実消滅シタルトキニ限リ之ヲ許ス其異議ハ強制執行ヲ為ス債権者ニ對シ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ申立ツ可シ

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ申立ツルヿヲ要ス

第五百三十六條　前條ノ規定ハ第五百九條第二項乃至第五百十條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明セラレタリト認メラレタルモノニシテ之ニ因リ判決ノ執行ヲ為シ得可キ事實

ハ到来ヲ竢ヒ又ハ認メラレタル承權ヲ竢フトキ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テハ第五百十三條ニ從ヒ執行又ハ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ之カ爲メ妨ケラレス

旧第六百十二
独第六百八十八

第五百三十七條　強制執行ノ継續ハ前二條ノ場合ニ於テ異議ノ訴ノ提起ニ因テ妨ケラレス

然レ氏異議ノ爲メ主張セラレタル情況カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ点ニ付キ疏明セラレタルトキハ異議ノ訴ニ付テノ裁判ヲ管轄スル裁判所ハ判決ヲ爲スマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止スルヿ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執

行ヲ継續スルヿ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ廢棄スルヿヲ申立ニ因リ命スルヿヲ得前條ノ場合ニ於テハ執行處分ノ廢棄ハ第三者ヨリ保證ヲ立テサルモ之ヲ許ス可シ

其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スヿヲ得急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行用スルヿヲ得此場合ニ於テハ同時ニ其裁判所ハ異議ノ訴ヲ管轄スル裁判所ノ裁判書ヲ提出セシムル爲メ相當ノ期間ヲ定ム可シ其期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ継續ス

第五百三十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ爲シ又ハ既ニ爲シタル命ヲ廢棄シ變更シ若クハ認可スルコトヲ得

判決中前項ノ包有事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

其不服申立ニ付テハ第~~四~~五百~~九~~三十九條ノ規定ヲ準用ス

第五百三十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ有シ又ハ其他目的物ノ讓渡若クハ債權者ニ對スル其選付ヲ妨クルノ權利ヲ有スルトキハ其強制執行ニ對スル異議ヲ訴ニ因リ債權者ニ對シテ主張シ又債務者ニ

於テ其異議ヲ理由アリト認メサル場合ニ於テハ債權者ト債務者トニ對シテ之ヲ主張ス可シ

其訴カ債權者ト債務者トニ對シテ起サルヽトキハ之ヲ共同爭訟人ト看做ス可シ

其訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ爭訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

第五百四十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ廢

棄スルコ又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言セラレ若クハ其停止ヲ命シタルコノ顯ハル

、執行力アル裁判書ノ正本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時停止ヲ命シタルコノ顯ハル、裁判書ノ正本

第三 執行ヲ免カルヽ為メ保證ヲ立テ又ハ寄託ヲ為シタルコノ顯ハル、裁判所ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ヲ為シタル後債權者加辨償ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタルコノ顯ハル、證書

旧六百十五

第五百四十一條 前條第一号ノ場合ニ於テハ假執行ノ宣言アリタル判決又ハ確定ト為リタル判決ハ執行文ヲ要セスシテ直チニ執行セラル可シ

旧六百十七
独六百九十三

第五百四十二條 第五百四十條第一号及ヒ第三号ノ場合ニ於テハ既ニ為シタル執行處分ヲモ廢棄ス可シ第二号ノ場合ニ於テハ其裁判ニ因リ從前ノ執行行為ノ廢棄ヲ命セサル片ニ限リ既ニ為シタル執行處分ヲ一時存立セシム可シ第四号ノ場合ニ於テモ亦第三号ノ場合ニ同シト雖モ債權者カ求メタル片ハ強制執行ヲ始メ又ハ之ヲ繼續ス可シ

旧六百十九
独六百九十五

第五百四十三條 債務者強制執行ノ始マリタル後ニ死亡スル片ハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ繼續ス可シ

債務者ノ立會ヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人ナキトキ又ハ相續人ノ所在不分明ナルトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ遺產又ハ相續人ノ爲メ臨時代人ヲ任ス可シ

旧第六百二十

第五百四十四條　戸主タリシ債務者カ強制執行ノ始マリタル後ニ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ其變更ノ生スル時ニ債務者ノ所持セシ財產ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

旧第六百二十二
独第六百九十七

第五百四十五條　強制執行ノ費用ハ其必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス其費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨償ス可シ

[illegible]第三ニ付
執行委員ノ調査ニ[illegible]
三十二条ノ次ニ入[illegible]
[illegible]ノ場所ニ入リ

[illegible]六百廿二

第五百四十六條　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在不分明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

旧第六百廿三
独第六百九十八

第五百四十七條　執行又ハ其停止ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

旧第六百廿五
独第六百九十九

第五百四十八條　現役ノ軍人軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用ノ廳舍又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

差押物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ

現行五百三十四
獨第七百

交付ス可シ

第五百四十九條　強制執行~~上~~ヲ外國ニ於テ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ司法共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

強制執行ヲ外國駐劄ノ本邦領事ニ因リ爲シ得可キトキハ第一審裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

民事訴訟法草案議案第三十七号修正ノ理由

○第五百三十五條第一項中「其判決ヲ發」ノ五字ヲ削リ「判決ニ接着云々」ノ十四字ヲ加ヘタルハ「シュルツェンスタイン」氏ノ意見ニ依リ之ヲ改メタリ「異議ハ訴以下云々ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ語路ヲ整ヒタルニ過キス第二項中「然レ𪜈」ノ三字ハ必要ヲ見サル故之ヲ削リ「主張スト」アルヲ「申立ツ」ト改メタルハ先例ニ倣ヒタリ

○第五百三十六條　本條ハ先キニ第五百九條第五百十條第五百十三條等ノ規定ヲ設ケタル結果ニテ尚此手續ヲ置カルヲ得ス是ヲ以テ亦新タニ之ヲ加ヘタリ

○第五百三十七條第一項中「判決ハ發セラル」トアルヲ「判決ヲ為ス」ト改メ第二項中「其命ハ豫メ」トアルヲ「其裁判ハ」ト改メ「發」トアルヲ「為」ニ改メタルハ總テ先例ニ倣ヒタリ第三項ハ原文ノ儘

○第五百三十八條第一項中「發」トアル二ケ所ヲ「為」ニ改メタルハ先例ニ倣ヒタルモノナリ第二項ノ冒頭ハ「其判決ニ付テハ」トアルマテニテ甚タ場合明カナラス依テ前項ノ包有事項タル文意ヲ加フヘシト「シュルツェンスタイン」氏ノ注意アリシ故之ニ從ヒ修正ヲ為シタリ第三項ハ數字ヲ改メタルニ過キス

○第五百三十九條第一項ハ原文ノ儘第二項中

「此両人云々」ノ十八字ハ必要ナラサルニヨリ之ヲ削リ「之ヲ」ノ二字ニ改メタリ第二項中「ニ付テ」ノ三字及ヒ「ヲ有」トアル二ケ所ヲ削リ修正ヲ加ヘ「カ」ヲ「ヲ」ニ改メタルハ語路ヲ整ヒタルニ外ナラス

○第五百四十條前文中「書類ハ提出セラレ」トアルヲ「書類ヲ提出シ」ト改メ第一号第二号中モ亦「カ」トアル數ケ所ヲ「ヲ」ト改メ「セラレ」トアル數ケ所ヲ「ス」若クハ「シ」ト改メタルハ先例ニ倣ヒタリ第三号中ニ「又ハ寄託ヲ為シ」ノ七字ヲ加ヘ「裁判上」トアルヲ「裁判所」ト改メタルハ前ニ修正ヲ加ヘタル所ニ準據シタルモノナリ第四号冒頭ノ二十一字ヲ削リ本文ノ如ク修

正シタルハ語路ヲ整ヒタルニ過キス第五号ノ場合ハ本邦ニハ不適當ト思考シ之ヲ删除ス何ントナレハ本邦ノ郵便為替ノ如キハ独逸杯ノ為替ト異ナリテ為替ヲ振出シタルモノハ其為替金ヲ渡シタル受領書ハ之ヲ為替受取人ノ方ヘ送ラサルヲ得サルノ手續ナレハナリ

○第五百四十一條　本條ハ原文第一項中「前條ニ云云」トアル入レ文ヲ冒頭ニ出シ「命令」トアルヲ例ニ依リ「文」ト改メタルニ過キス第二項第三項ハ當然ノヿニシテ法文ヲ置ク程ノ必要ヲ見サルニ因リ之ヲ削リタリ

○第五百四十二條　本條ハ數字ヲ改メ且「ホレ」トアル二ケ所ヲ「ジ」ニ改メタルニ外ナラス原文第二項ハ不動産及ヒ船舶ニ對スル強制執行ノ部ヲ修正シタル上ニ非サレハ果シテ此手續カ相当スルヤ否知ルヘカラス又如此法文ナキモ前項ニテ充分ト思考シ之ヲ削リタリ」

○第五百四十三條　第一項中「直チニ」ノ三字ハ必要ナラサルヲ以テ之ヲ削リ又第二項中「カ実施セラルヽ云々」ノ四十四字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ原文中相續人未タ其地位ヲ占ムルニ至ラスト云フノ場合ニ疑ヒアルヲ以テ修正ヲ加ヘタルモノナリ

○第五百四十四條　原文中前條トアル下ニ「第一項」トアレモ前條ハ第一項ノミナラス第二項

ノ場合モ亦準用シテ差支ナシト思考スル故此三字ヲ削リタリ尤前條及ヒ本条ノ如キハ民法ト大ニ関係アリ依テ民法草案人事編ノ成立タル上ハ之ト對照シテ再ヒ調査スヘキ意見ナリ

○第五百四十五條第一項ノ末ニ「其費用云々」ノ二十五字ヲ加ヘ又第二項ノ冒頭「其費用ハ」トアル四字及ヒ「ガ本事件ニ付云々」ノ十三字ヲ削リ修正ヲ加ヘ又ハ「之ヲ」トアルヲ「ニ」ト改メタルハ手續ヲ明カニ為シタルモノナリ

○第五百四十六條原文ノ儘

○第五百四十七條原文ノ儘

○第五百四十八條本條ハ旧案ノ総則中ニ設ケナキ事項ナレ𪜈按スルニ如此規定ハ総則中ニ離ルヘカラサル手續ト思考ス依テ独訴訟法ノ法文ヲ取リ之ヲ加ヘタリ

○第五百四十九條原文ハ第一項二項共ニ疑ハシキ法文ニシテ且第百五十條以下第百五十三條ニ至ル法文ニモ適合セサル故本文ノ如ク修正ヲ加ヘタリ

其状書ハ余ノ嘗テ　自ラ識ニ校

以テ明治[illegible]ハ一月十九日ニ至リ[illegible]

三十日ニ[illegible]編[illegible]続キ書ス[illegible]

其[illegible]書ハ其友[illegible]ノ如キ也

明治廿一年七月廿三日

[illegible]原田[illegible]

[illegible]

[illegible]

民事訴訟法草案議案第三拾八號

第五百五十條　強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ経スシテ為スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第五百五十一條　強制執行ハ左ノ諸件ニ因リテモ亦之ヲ為スコトヲ得

第一　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二　督促手續ニ於テ発シタル支拂命令但異議期間ノ満了シタル後ニ限ル

第三　訴ノ提起後争訟ノ全部又ハ一分ヲ觧止スル為メ受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ為シタル

1

但書ト一定ヲかヘ
つゝ決ス

獨第七百七

和解

第四　第三百六十~~八~~七條ノ場合ニ於テ區裁判所ニテ為シタル和解

第五　本邦ノ公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但其證書ハ定マリタル金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ定マリタル數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタルモノニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

前記ノ債務名義ニ因レル強制執行ニ付テハ第五百七條以下ノ規定ヲ準用ス但

第五百五十二條　此編ニ定メタル裁判籍ハ之ヲ專屬ナリトス

獨第六百四十七
同第六百四十八
佛第五百五十八

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節　動產ニ對スル強制執行

第一款　通則

第五百五十三條　動產ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ為ス其差押ハ執行カアル正本ニ明示シタル請求ヲ債權者ニ辨償スル為メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ為メ必要ナルモノ、外ニ及ホスヿヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ為スヿヲ得ス

獨第六百五十五
佛第五百五十九

第五百五十四條　債權者ハ差押ヘタル物ニ付

[illegible]

キ契約ヲ以テ得取シタル質權ト均シキ質權ヲ差押ニ因テ得取ス

債權者ハ此質權ニ依リ他ノ債權者ニ先ナテ差押物ヲ以テ辨償ヲ受クルヿヲ得其質權ハ差押ノ前差押物ニ付キ契約ニ因リ質權ヲ有効ニ得取シタル債權者又ハ民法ニ從ヒ特別ノ優先權及ヒ破産ニ於テ別除權ヲ有スル債權者ノ權利ニ後ルヽモノトス

前ノ差押ニ因リ得取レタル質權ハ後ノ差押ニ因リ得取シタル質權ニ先タツモノトス

第五百五十五條　第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ質權又ハ優先權ヲ有スルモ其物ヲ占有セサル片ハ差押ヲ妨クルヿヲ得ス然レ𪜈

第五百三十五條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨償ヲ請求スル權利ハ此カ爲メ妨ケラレス此場合ニ於テ裁判所ハ請求ノ爲メ主張セラレタル情狀カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ点ニ付キ疏明セラレタルトキハ賣得金ヲ裁判所書記ニ預クルヿヲ命ス可シ但此事ニ付テハ第五百三十三條及ヒ第五百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第二款　有體動產ニ對スル強制執行

第五百五十六條　債務者ノ保管中ニアル有體動產ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ヲ債務者ノ保管ニ任スルハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキニ限リ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ（封印其他ノ方法ヲ以）差押ヲ明カニスルニ依テ生ス執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百五十七條　前條ノ規定ハ債權者又ハ物ヲ提出スルノ意アル第三者ノ保管中ニアル物ノ差押ニモ亦之ヲ準用ス

第五百五十八條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルヿヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一ヶ月内ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第五百五十九條　差押ノ效力ハ當然差押物ヨリ生スル天然ノ產物ニモ及フモノトス

第五百六十條　左ノ物ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一　衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其家族ニ必要ナル二週日（一ヶ月）間分ノ食料及ヒ薪炭

第三　技術者、職工及ヒ勞役者並ニ穩婆ニアリテハ其營業上缺ク可カラサル物

第四　農業者ニアリテハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜及ヒ肥料並ニ次ノ收穫マ

[illegible]

テ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶、公立教育場ノ教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニアリテハ其職業ヲ官理シ又ハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立教育場ノ教師ニアリテハ差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給支拂マテノ時間ニ於テ職務上收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル部分ニ相當スル金額

第七　藥舖ニアリテハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八　勲章及ヒ名譽ノ證標

第九　實印其他職業ニ必要ナル印

第十　神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一　系譜

第十二　債務者又ハ其家族ノ者ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ者ノ未タ公ニセサル稿本

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除クノ外之ヲ差押フルトヲ得

第五百六十一條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲メ金錢ノ豫納

ヲ要スル𪜈ハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名ノ關係スル𪜈ハ其要求額ノ割合ニ從ヒ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ要求シタル豫納金ヲ給付セサル爲メ差押物ヲ尚ホ保存スルヿ能ハス且未タ其競賣ヲ爲スヿヲ得サル𪜈ハ執達吏ハ差押物ヲ債務者ニ返還シ其旨ヲ差押調書ニ追記ス可シ

第五百六十二條　執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ下ノ數條ノ規定ニ從ヒ公ケノ競賣ノ方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百六十三條　競賣セラル可キ物ノ中高價物アル𪜈ハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其價額ヲ評定セシムルヿヲ要ス

佛第七百十六ノ第二項

第五百六十四條　差押タル金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ執達吏カ金錢ヲ取立タル𪜈ハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ寄託ヲ爲シ執行ヲ免カルヽヿヲ債務者ニ許シタル𪜈ハ此限ニ在ラス

民事訴訟法草案議案第三十五号追加

第五百六條（第三号ノ次ニ左ノ一号ヲ加ヘ旧ノ第四号ヲ第五号ニ改ム）

第四　本法ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサル時

（理由）右事項ハ御議定ニ依リ之ヲ加フ然レハ此事項ハ本部ニ於テハ必要トセス故ニ報告委員ハ之ヲ廢セラレンコトヲ希望ス

民事訴訟法草案議案第三十八号修正ノ理由

○第五百五十條本條ノ手續ハ旧案ニハ設ケサリシモ必要ノ事項ト思考シ新タニ之ヲ加ヘタリ

○第五百五十一條　第一号ノ原文ハ甚タ解シ難キ所アルノミナラス費用確定ニ付テハ已ニ第八十三條ニ於テ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヿニ定メタル故「費用確定云〻」ノ十九字ト「又ハ」以下ヲ削リ本文ノ如ク修正シタリ第二号ハ「發セラレ」トアルヲ「發シ」ト改メタルニ過キス第三号ハ「ヒユルツエンムタイン」氏ノ意見アルノミナラス第二百二十六條ニ於テ認諾ノ場合ニハ判決ヲ以テ言渡ヲ為スヿニ定メタレ

ハ本条中ニ之ヲ加ヘ置クヘキ謂ハレナシ依テ之ヲ削除シタリ旧第四号ハ第三号ト改メ原文ノ儘旧第五号ハ第四号ト改メ「和解手続ニ於テ」トアル七字ヲ削リ裁判官ノ和解ヲ為シタルト勧解又ハ和解ヲ為シタルト其區別ヲ立テ本項ハ裁判官ノ為シタル和解ノ場合ニ限ル精神ヲ明カニスル為メ本文ノ如ク修正ヲ加ヘタリ旧第六号ハ第五号ト改メ原文中「代補物」トアルヲ例ニ倣ヒ「代替物」ト改メ末文ノ「作ラレタル云々」ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ公證人規則第三条ノ成規ニ基キタルモノナリ尤此事項ニ付テハ「シュルツェンスタイン」氏ノ意見アレハ公證人規則第三条ヲ始メ第十四条及ヒ第四十三条等ノ定規ニ依リ之ヲ置カサルヲ得サルモノト思考ス末項ハ數字ヲ改メタルニ過キス

○第五百五十二條　本條ハ独訴訟法ニ倣ヒ新タニ之ヲ加ヘタリ　抑強制執行ハ物件ノ所在地ニ就キ之ヲ施行スヘキハ當然ニシテ他ニ方法アルヿナシ則チ本条ノ專屬裁判籍ヲ必要トスル所以ナリ

旧第六百十六条ハ第五百二十条ノ規定ニ依リ充分ナルヲ以テ之ヲ削除ス

旧第六百十八條ハ「シュルツェンスタイン」氏ノ意見モアリ且必要ノ法文ト認メサルニ因リ之ヲ刪除ス

旧第六百二十七條モ「シュルツェンスタイン」氏ノ意見アリ殊ニ共有物等ニ係ルトキハ強制執行ヲ為サヽルヲ得ス依テ之ヲ削除ス

旧第六百二十八條ハ執達吏ノ節ヲ廢シタル結果ニテ之ヲ削除ス

旧第六百三十一條モ同断

旧第六百三十二條モ必要トセサルノミナラス此條項ノ法理ニ付キ大ニ疑ヒアルヲ以テ之ヲ削除ス

旧第六百三十四条ハ執達吏ノ一節ヲ廢シタルノミナラス元来執達吏ノ細則ニ属スヘキモノト思考シ之ヲ削除ス

旧第六百三十五條同断

旧第六百三十六條　同断

旧第六百四十二條　同断

旧第六百四十四條　同断

旧第六百四十五條　同断

第二章　金錢云々

第一節　動産云々

第一款　通則云々

旧案ニハ通則ヲ置カサレトモ動産ニ對スル強制執行中有體動産ニ對スルモノト債權ニ對スルモノト二種アルニ付キ訴訟法ニ倣ヒ通則ヲ置クハ便法ト思考シ之ヲ設ケタリ

○第五百五十三條

本条ハ旧第六百四十七条ト旧第六百五十條ノ第一項及ヒ第三項ノ精神ト

ヲ取リ且独訴訟法第七百八條ニ基キ修正シタルモノナリ

旧第六百四十九條ハ其場所ヲ得サルニ依リ茲ニ之ヲ削リ後條ニ此精神ノ手續ヲ設クヘシ又旧第六百五十條ノ第二項ノ如キハ債務者ニ選定ノ権利ヲ與フヘキ必要ヲ見サル故之ヲ削リタリ何トナレハ債務者ニ於テ撰定ヲ為スヘキ程ニ財産アレハ之ヲ自ラ賣却シテ其義務ヲ盡セハ強制執行ヲ受クルノ要ナケレハナリ

○第五百五十四條第一項ハ原文ノ侭第二項中「債権者ハ云々然レト、マテノ二十七字ハ「エルツエンスタイン」氏ノ意見アルノミナラス元来疑点ノアル法文ナルカ故之ヲ削リタリ第三項ハ原文ノ侭

○第五百五十五條本條ハ數字ヲ改メタルニ過キス

○第五百五十六條第一項ハ旧第六百四十八條ノ精神ヲ取リ修正シタリ第二項ハ茲ニ必要ト思考シ独法ニ倣ヒ修正シテ加ヘタリ

○第五百五十七條本条ハ前條第二項ヲ加ヘタル結果ニテ新タニ之ヲ加ヘタリ

○第五百五十八條本条ハ原文ノ侭尤旧案ハ其場所ヲ得サル故独法ニ倣ヒ茲ニ加ヘタリ

○第五百五十九條本条モ旧案其場所ヲ得サル故茲ニ加ヘ且語路ヲ改メテ本文ノ如ク修正

ミタリ
旧第六百五十三條ノ如キ手続ヲ以テ郡区長等ニ金銭ヲ預クルコトハ将来施行シカタキノミナラス執達吏ノ細則ニ属スルヲ以テ之ヲ削除ス

旧第六百五十四條モ前同断

旧第六百五十五條ハ第九百五十六條ノ第二項ニテ充分ト思考シ全ク之ヲ削除ス

旧第六百五十六條ヨリ旧第六百五十八條ニ至ル手続ハ細則ニ属スルヲ以テ之ヲ削除ス但第三者ニ對スル差押ハ第五百九十七條ノ規定ニテ足リトス

○第五百六十條第二ヲ除テハ原文ノ侭第三号ヨリ第七号マテヲ本文ノ如ク修正シタルハ是等ノモノハ総テ差押ヘカラサルモノト思考スレハナリ而シテ順序ヲ改メタルハ第三号ヨリ第八号ニ至ル事項ハ公益ニ関スルモノナルカ故独法ニ倣ヒ茲ニ纒メタリ第九号第十号ハ法意ヲ明カニシタルニ過キス第十一号第十二号ハ原文ノ侭旧第六旧第八旧第九号及ヒ旧第十一号ハ前ニ数号ヲ加ヘタル結果ニテ之ヲ削リタリ但第十一号ニ特別ノ法文云々ノ如キハ茲ニ法文ヲ設ケサルモ特別法ノ明文ニテ足レリトス新タニ本項ヲ加ヘタルハ必要ノ手続ト思考スレハナリ

旧第六百六十條及ヒ旧第六百六十一條ハ既

達吏ノ細則ニ屬スヘク且「シェルツェンスタイン」氏モ同様ノ意見アル故之ヲ削除ス

旧第六百六十三條ハ第五百四十六条ノ規定ニテ足レリトシ之ヲ削除ス

○第五百六十一條原文ノ侭

旧第六百六十六條ハ差押ノ原則ニ背クノミナラス実際動産ノ差押ニ付テハ本条ノ如キ猶豫ナカルヘシト思考スル故之ヲ削除ス

旧第六百六十七條ハ第五百三十一條ノ規定ヲ準用シテ可然且細則ニ屬スヘキ故之ヲ削除ス

○第五百六十二條原文「然レ𪜈」以下ハ少シク疑ハシキ手續ナル故之ヲ削リタリ

○第五百六十三條原文ノ儘

○第五百六十四條新タニ本条ヲ加ヘタルハ頗ル必要ノ手續ト思考スレハナリ

本件ニ付[illegible]ハ[illegible]會議ノ上[illegible]

[illegible]答案 議案

東三十九[illegible][illegible]

[illegible]

明治[illegible]

右[illegible]

民事訴訟法草按議按第三十九号

第四節　計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ニ於ケル準備手續

△第一條　計算ノ當否財産ノ分別又ハ此ニ類スル関係ヲ目的トスル訴訟ニ於テ計算書又ハ財産目録ニ對シ許多ノ爭アル請求權ノ生レ又ハ許多ノ爭アル異議ノ生シタル片ハ受訴裁判所ハ受命判事ノ面前ニ於ケル準備手續ヲ命スルヿヲ得

△第二條　準備手續ヲ命スル決定ヲ言渡スニ際シ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ決定完結ノ期日ヲ定ム可シ若シ裁判長カ期日ヲ定メサル片ハ受命判事之ヲ定ム又受命判事

施行

独[illegible]

其委任ヲ執行スルニ差支アルトキハ裁判長他ノ判事ヲ任ス

[illegible]

△第三條　準備手續ニ於テハ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ニス可シ

第一　如何ナル請求ヲ為スヤ及ヒ如何ナル攻擊防禦ノ方法ヲ主張スルヤ

第二　如何ナル請求及ヒ如何ナル攻擊防禦ノ方法ヲ争フヤ又ハ争ハサルヤ

第三　争ヒト為リタル請求及ヒ争ヒト為リタル攻擊防禦ノ方法ニ付テハ其事實上ノ關係及ヒ原告被告ノ表示シタル擧證方法主張シタル擧證抗辯擧證方法并ニ擧證抗辯ニ關シテ為シタル陳述及ヒ提出シタル申立

セリ[illegible]判

~~其手續ハ争訟カ區裁判所ニ繫屬シタルトキ適用ス可キ成規ニ從フ~~又其手續ハ争訟又ハ中間争訟カ判決又ハ採證決定ヲ為スニ熟シタリト見ユルマテ之ヲ繼續ス可シ

独[illegible]

△第四條　原告又ハ被告カ期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セサル片ハ受命判事ハ出頭シタル原告又ハ被告ノ提供ヲ前條ノ規定ニ依リ調書ヲ以テ明確ニシ且新期日ヲ定ム可シ出頭セサル原告又ハ被告ニハ調書ノ謄本ヲ付與シテ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

原告又ハ被告カ新期日ニモ亦出頭セサル

3

件ハ送達シタル調書ニ掲ケタル相手方ノ事實上ノ主張ヲ自認シタルモノト看做シ其主張ニ付テノ準備手續ハ~~継續セス~~完結シタルモノトス

独第二百十七

△第五條　受訴裁判所ハ準備手續ノ終結後口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ原告被告ニ通知ス可シ

独第二百十八

△第六條　原告被告ハ口頭辯論ニ際シ準備手續ノ結果ヲ調書ニ基キ演述ス可シ原告又ハ被告カ出頭セサル件ハ準備手續ニ於テ爭ハサルヿノ顕ハレタル請求ハ一分判決ヲ以テ之ヲ完結ス可シ其他ニ付テハ申立ニ因リテ闕席判決ヲ爲ス可シ

独第二百十九

△第七條　事實又ハ證書ニ付キ受命判事ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スヿヲ拒ミタル件ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ追完スルヿヲ得ス

請求、攻擊防禦ノ方法、擧證方法及ヒ擧證抗辯ニシテ受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニセサルモノハ後日ニ至リ始メテ生シ又ハ後日ニ至リ始メテ原告若クハ被告ノ知リタルヿヲ疏明スル件ニ限リ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルヿヲ得

（旧第六百七十　独第七百十七　第一項）

第五百六十五條　差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存セサル可カラス但當事者カ競賣ヲ更ニ早ク為サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付テノ不相應ノ費用若クハ其物ノ價額著シク減少スルノ危害ヲ避ケン為メ競賣ヲ更ニ早ク為スヿ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

（旧第六百七十　独第七百十七第二項以下）

第五百六十六條　競賣ハ差押ノ有リタル[illegible]市町村ニ於テ之ヲ為ス但債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ為スヿヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百六十七條　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落シタル物ノ引渡ハ代金拂濟ニ對シテノミ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル期日又ハ其定メナキトキハ競賣期日ノ終ル前代金ノ支拂ヲ爲シ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルヿヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任シ其高キトキハ剰餘ヲ請求スルヿヲ得ス

第五百六十八條　競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直ニ之ヲ止ム可シ

第五百六十九條　執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ寄託ヲ爲シテ執行ヲ免カルヽヿヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スヿヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルヿヲ得

第五百七十一條　~~執達吏ハ~~相場ヲ有スル有價證券ニ付テハ執達吏ハ~~ヲ差押ヘタル時ハ~~其日ノ相場ヲ以テ之ヲ適宜ニ賣却ス可シ若シ相場ナキモノナルトキ

七月廿六日議了

10

ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ競賣ス可シ

第五百七十二條　有價證券記名ノモノナル𪜈ハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ之カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スノ權ヲ執達吏ニ與フルトヲ得

民事訴訟法草案議案第三十九号修正ノ理由

計覧事件云々準備手續ノ一節ハ第二編第二章第四節トシテ闕席判決ノ次ニ差加フヘキ筈ニ已ニ御議定相成リタル上ハ再調査ノ都合モ有之ニ付今回御會議ヲ乞フ

△第一條ヨリ△第七條マテハ總テ独法ニ依リタルモノニシテ他ニ理由ナシ尤独第三百十九條第一項中「受命判事ハ面前ニ出頭云々」ヲ削リタルハ之ヲ必要トセサルカ故ナリ

〇第五百六十五條原文ノ第一項第二項第四項ハ餘リ干渉ニ過クルヲ以テ之ヲ削リ第三項ヲ原文ノ侭之ヲ一條ト為ス

1 〇第五百六十六條　原文第一項中「又ハ裁判所ヨリ

リ其地ヲ指定シ」ノ十三字ハ必要ヲ見ス第二項ハ細則ニ属スルヲ以テ之ヲ削リタリ而シテ旧第六百七十一條及ヒ第六百七十二條ハ餘リ鄭重ニ過クル故是等ノ條項ヲ削除シ独法ニ倣ヒ本条ニ一項ヲ新設シタリ

旧第六百七十四條ハ場所ヲ得サル故後條ニ加フ

旧第六百七十五條ハ細則ニ属スルヲ以テ之ヲ削除ス

旧第六百七十六條ハ訴訟法ニ属スヘキモノトモ思ハレ且民法草案第千百七十六条ニ本条ト均シキ規定アル故之ヲ削除ス

○第五百六十七條　原文ノ前文ヲ削リ第一号中「然レ𪜈」以下ヲ削リ第三号中「ニ對シ競落サレタル」ノ九字「直チ」ノ二字「再ヒ」ノ二字及ヒ「不足」ノ二字ヲ削リ且第一第二第三ノ二号ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ冗長ナル文字ヲ省キ語路ヲ調ヒタルニ過キス第四号ハ場所ヲ得サルニ依リ修正シテ後條ニ加フ

旧第六百七十八條及ヒ旧第六百七十九條ハ細則ニ属スルヲ以テ之ヲ削除ス

○第五百六十八條ヨリ第五百七十二條ニ至ル條項ヲ新タニ加ヘタルハ前數條ヲ修正シタル結果ニテ独法ニ倣ヒ之ヲ加ヘサルヲ得サルカ故ナリ

東坪七日 [illegible]
試筆 研 [illegible]
四十雑 [illegible]
及び [illegible]
[illegible]

民事訴訟法草按議案第四十号

第五百七十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ書換ヘ又ハ其他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メラレタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通ヲ囬復セシメ及ヒ之カ為メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ為スノ權ヲ執達吏ニ與フルヿヲ得

第五百七十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟シタル後始メテ之ヲ為スヿヲ許ス執達吏ハ競賣ノ為メ其收獲ヲ為サシムルノ權利アリ

第五百七十五條　債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ差押タル物ノ賣却ヲ前數

條ノ規定ニ依ラスシテ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ為ス可キヿ又ハ競賣ヲ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ為サシム可キヿヲ命スルヿヲ得

獨七百二十七

第五百七十六條　既ニ差押タル物ノ差押ハ執達吏委任者ノ為メ其物ヲ差押フル旨ヲ調書ニ記載シテ之ヲ為ス

他ノ執達吏第一ノ差押ヲ為シタル場合ニ於テハ之ニ其調書ノ謄本ヲ送達ス可シ

第二以後ノ差押ハ之ヲ債務者ニ通知ス可シ」

獨七百二十八

第五百七十七條　執行裁判所ニ於テ執行ニ參カル或ル債權者ノ申立又ハ債務者ノ申立ニ因リ第一ノ差押ヲ為シタル執達吏ノ事務ヲ他ノ執達吏ニ任カス可キヿヲ命セサル限リハ次ノ債權者ノ委任ハ第一ノ差押ヲ為シタル執達吏ニ法律上移轉ス其競賣ハ執行ニ參カル各債權者ノ為メ之ヲ為ス

賣得金ヲ以テ請求ヲ辨償スルニ足ラサル場合ニ於テ第二又ハ其後ノ差押ヲ為サシメタル債權者カ執行ニ參カル他ノ債權者ノ承諾ヲ經スシテ差押ノ順序ニ依ラサル分配ヲ求ムルトキハ執達吏ハ賣得金ヲ寄託シテ其狀況ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可シ其屆書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添付ス可シ

差押ヲ數多ノ債權者ノ為メ同時ニ為シタルトキハ亦同一ノ方法ヲ以テ其手續ヲ為ス可シ」

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

第五百七十八條　第三者~~第三債務者~~ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金額ノ支拂又ハ他ノ有體動產若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ以テ目的トスルモノ、强制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ為ス

第五百七十九條　執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ其如キ裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百八十條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ其差押フ可キ債權ノ種類、數額及ヒ支拂期限ヲ明白ニ表示ス可シ

其申請ハ裁判所書記ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ為スヿヲ得

第五百八十一條　差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百八十二條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支ハヲ為スヿヲ禁ス可シ又債務者ニ對シテハ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ為ス可カラサルヿヲ命ス可シ

差押命令書ハ職權ヲ以テ債務者及ヒ第三債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達アリ

タルヿヲ通知ス可シ差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ為シタルモノト看做ス

第五百八十三條 抵当債権ノ差押ノ場合ニ於テハ債権者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債権ニ関スル質権ヲ記入簿ニ記入セシムルノ権利アリ

記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ為ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルヿヲ得

裁判所ハ負擔アル不動産ノ所有者（第三債務者）ニ差押命令書ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ為ス可シ

第五百八十四條 為替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルヿヲ得ル證券ニ依レル債権ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ為ス

第五百八十五條 俸給ノ債権又ハ之ニ類スル~~經~~継續收入ノ債権ノ差押ニ依リ得取スル質権ハ差押後支拂期限ノ到來スル金額ニモ亦及フモノトス

第五百八十六條 職務上收入ノ差押ハ債務者轉官又ハ兼任又ハ增俸ニ依リ得ル收入ニモ亦及フモノトス

第五百八十七條 差押タル金錢ノ債権ハ債権者ノ撰定ニ從ヒ取立ノ為メ又ハ支拂ニ代ヘ券面額ニテ之ヲ債権者ニ轉付ス

支拂ニ代ヘ券面額ニテ移付シタル場合ニ於テ債権ハ其債権ノ存スル限リ債務者ニ對ス

七月二十七日議了

ル債權ニ付キ辨償ヲ受ケタルモノト看做ス
可キ効力ヲ以テ債權者ニ轉付ス
第五百八十二條第三項ノ規定ハ亦之ヲ準用
ス

民事訴訟法草案議案第四十号修正ノ理由

第五百七十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ書換ヘ又ハ其他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メラレタルモノヲ差押ヘタルトキハ其流通回復ヲ為サシメ及ヒ之レカ為メ必要ナル陳述ヲ為サヽルヘカラス然ルニ此場合ニ於テ右ノ處分ヲ為スハ誰人カ為スヘキカ旧案中之ヲ定メタル法文ナシ抑是等ノ事タル債務者ノ義務ナリト雖𪜈強制執行ハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ為スモノナルニ依リ多クハ債務者ニ於テ右ノ手續ヲ為サヽル可シ若シ強テ債務者ヲシテ為サシメントセハ本人ノ身体ニ暴行ヲ加フルノ外ナカル可シト雖モ是固ヨリ法

理ノ許サヽル所ナリ是ヲ以テ獨乙訴訟法第七百二十四條ニ此規定ノ設ケアル所以ニシテ実ニ適當ノ法條ト思考ス故ニ此訴訟法ニ於テモ新ニ本條ヲ設ケテ以テ右ニ云フ場合ノ疑問ヲ避ケタルナリ

第五百七十五條　本條ノ意味ハ旧第六百六十八條後半項及ヒ第六百六十九條二項ニ定メアリタレ氏其体裁ヲ得サルニ依リ更ニ本條ヲ以テ一條ト為シ獨乙訴訟法ノ編纂順序ニ傚ヒタルナリ

第五百七十六條　有体動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ為スヲ原則トス然ルニ既ニ差押ヘタル物ヲ差押ヘントスルニハ其物

ハ既ニ執達吏ノ手ニ占有シタルヲ以テ更ニ之ヲ占有スルノ道ナリ又他ノ執達吏ノ手ニ差押ヘタルヿモアル可シ此場合ニ於テハ後ノ差押人ハ如何シテ差押ノ効力ヲ有ス可キカ旧案中此定メナキヲ以テ獨乙訴訟法第七百二十七條ニ傚ヒ新ニ本條ヲ設ケテ以テ完全ナラシメタルナリ

第五百七十七條　前條ニ於テ既ニ差押ヘタル物ヲ差押フル方法ヲ設ケタルニ依リ第一ノ差押ヲ為シタル執達吏ト第二ノ差押ヲ為シタル執達吏トハ共ニ債權者ノ委任ヲ行フ可キカ又其賣得金ヲ以テ第一ノ差押ヲ為シタル債權者ト第二ノ差押ヲ為シタル債權者

トニ辨償スルニ足ラサル場合ニ於テ差押ノ順序ニ依ラサル分配ヲ求ムルトキ執達吏ハ如何ニ之ヲ為ス可キヤノ疑問ヲ生スルハ當然ノ結果ナリ故ニ又獨乙訴訟法第七百二十八條ニ倣ヒ本條ヲ設ケタルナリ

第五百七十八條 旧案ニハ裁判上ノ差押命令云々トアレトモ文意明瞭ナラサルヲ以テ執行裁判所ト修正ス

第五百七十九條 前條ノ修正ヲ以テ第三者ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金額ノ支拂又ハ他ノ有体動産若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ為スト改メタルニ依リ

本條ニ於テハイツレノ裁判所ヲ執行裁判所ト為スカヲ明示スルヲ以テ足レリトス然ルニ旧案ニハ差押命令ヲ發スル為メ云々ノ文ヲ掲ケタルニ依リ之ヲ修正シテ執行裁判所トシテハ云々トシ法文ヲ明カニシタルナリ

第五百八十條 第一項ノ修正ハ文意ヲ明ラカナラシメタルモノナリ

第二項ノ修正ハ前例ニ依ル

第五百八十一條 旧案ニハ第六百九十五條ニ於テ差押命令ニハ左ノ諸件ヲ包含スト為シ第一ヨリ第六迄ヲ掲ケタリト雖モ獨乙訴訟法ニ於テハ第三者ニ對スル債權ノ差押ニ付テハ金錢ノ債權ト為替手形其他ノ債權トハ

各其手續ヲ異ニシ從テ其差押ノ効果ニモ亦差違アリ而テ該各種ノ債權中其手續ヲ異ニス可キハ其性質上然ル所以ニシテ之ヲ同一ノ手續ニ定ムルハ甚當ヲ得ス故ニ本條ノ如ク修正ス

第五百八十三條　第二項ノ申立ヲ申請ト修正シタルハ前例ニ依ル

第三項ヲ修正シタル理由ハ執達吏ヲシテ記入ノ手續ヲ爲サシムルハ全ク無用ノ手續ニ過キサルカ故ナリ之ヲ詳言スレハ登記簿ノ記入ハ裁判所ノ管掌ニ係ルヲ以テ若シ其登記簿カ執行裁判所ニアルトキハ直ニ之ヲ記入ス可ク又他ノ裁判所ニアルトキハ其記入ノヿヲ

直接ニ囑託シテ可ナリ豈執達吏ニ囑託書ヲ交付シ之レカ記入ヲ爲サシムルノ要アランヤ故ニ記ペパ手續ヲ爲ス可シト修正シ登記簿カ他ノ裁判所ニアルトキハ記入ノヿヲ囑託ス可キノ意ヲモ包含セシメタルナリ

第五百八十四條　本條ハジエルツェンスタインレ氏ノ意見ヲ參酌シテ修正シタリ

第五百八十五條第五百八十六條　旧案ニ於テハ第七百七條第四第五ヲ以テ官吏ノ俸給其他ノ收入ニ付テハ差押フヘカラサルモノト定メタリ独乙法ハ之レニ反シ其第七百四十九條ヲ以テ差押フヘカラサル最高ニ制限ヲ設ケ其制限ヲ超過シタルトキハ差押フルヲ得

ルヿニ定メタルハ至當ノヿト思考スルニ依リ本條ヲ設ケ尚旧苐七百七條ヲモ修正セリ

苐五百八十七條　本條ハ債權者ニ便利ヲ與ヘタル法條ニシテ旧案ニ此定メナシ故ニ獨乙訴訟法ニ倣ヒ新條ヲ設ケタルナリ

民事訴訟法草案議案第四十一号

（四百八十八　独七百三十一　七ノ第一）

第五百八十八條　債務者ノ債權ヲ債權者ニ轉付シタルヿヲ差押命令書中ニ揭ケタルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ債務者カ債權者ニ債權ヲ轉付スル為メ為シタル陳述ニ均シキモノトス

（四百八十九　独七百三十　七ノ第二　仏六百八）

第五百八十九條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ債權者ニ引渡スノ義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルヿヲ得

（独七百八十一）

第五百九十條第四百九十六條第二項ニ從ヒ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ寄託ヲ為サシメテ執行ヲ許シタルトキハ差押タル金錢債權

見五九、ヲリ

ノ轉付ハ取立ノ為メニノミ之ヲ為スモノトス但此場合ニ於テ第三債務者ハ負債額ヲ寄託スルヿヲ得

第五百九十一條　債権者カ差押命令中ニ包含セル轉付ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ例規ニ従ヒ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者~~ノ~~内国ニ在テ住所知レタルトキ~~又ハ其内國ニ在ルトキ~~ハ其争訟ヲ之ニ告知ス可シ

第五百九十二條　債権者カ債権ヲ行用スルヿヲ怠リ又ハ訴ヲ以テ其債権額ヲ取立ツルヿヲ怠リタルトキハ此カ為メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第五百九十三條　債権者ハ差押及ヒ轉付ニ因リ取立ノ為メ得取シタル権利ヲ抛棄スルヿヲ得但此カ為メ其請求権ヲ害セラルヿ無シ其抛棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出スヲ以テ之ヲ為ス但其副本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第五百九十四條　差押タル債権カ條件付若クハ期限付ナルトキ~~又ハ~~其取立報償辨濟ニ繋リ若クハ其他ノ理由ニ依リ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ轉付ニ代ヘ他ノ換價方法ヲ命スルヿヲ得

相手方内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第五百九十五條 有體物ノ引渡又ハ給付ニ關スル請求ニ付テノ強制執行ハ後ノ規定ヲ斟酌シテ第五百八十二條乃至第五百九十四條ノ成規ニ從ヒ之ヲ為ス

第五百九十六條 有體動産ニ關スル請求ノ差押ニ付テハ其物ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キヿヲ命ス可シ

其物ノ換價ニ付テハ差押タル物ノ換價ニ關スル成規ヲ適用ス

第五百九十七條 不動産ニ關スル請求ノ差押ニ付テハ其物ヲ債權者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キヿヲ命ス可シ

引渡シタル物ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ關スル強制執行ニ付テノ成規ニ從ヒ之ヲ為ス

第五百九十八條 第五百九十五條ニ揭ケタル請求ノ轉付ハ支拂ニ代ヘテ之ヲ為スヿヲ許サス

第五百九十九條 左ニ揭クル債權ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一 民法ニ依レル養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但其收入ハ債務者自身及ヒ其家族ノ生計ノ為メ必要ナルモノニ限ル

第三 疾病、罹災又ハ死亡ノ為メノ貯金預所ヨリ受取ル可キ金額

第四 下士官兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助~~兵卒ノ給~~料

第五 出陣ノ軍隊又ハ役ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ属スル軍人軍属ノ職務上收入

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立教育場教師ノ職務上收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第七 職工又ハ雇人ノ其勞力又ハ役務ノ為メ受クル報酬

第一號第六號第七號ノ場合ニ於テ職務上收入、恩給又ハ其他ノ收入一年間ニ三百圓ヲ超

過スルトキハ其超過額ノ三分ノ一ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ訴ノ提起後ノ時間及ヒ訴ノ提起前最後ノ三ケ月間ノ養料ニシテ債務者ノ婦及ヒ嫡正ノ子ノ~~ヲ満足セシムル~~為メニ差押ヲ為ストキハ前項金額ニ拘ハラス差押ヲ為スコトヲ許ス

第六百條 債權ヲ既ニ差押ヘタリト雖モ他ノ債權者ノ為メ其債權ヲ差押フルノ妨ケト為ラス

第二以後ノ差押及ヒ其後ノ手續并ニ數名ノ債權者ノ為メ同時ニ為ス~~サル~~可キ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス但下ノ數條ニ於テ

異ナリタル規定ヲ掲ケタル片ハ此限ニ在ラス

第六百一條　金錢ノ債權カ數名ノ債權者ノ為メ差押ヘラレタル片ハ第三債務者ハ最初ニ差押命令ヲ發シタル區裁判所ニ債務額ヲ預クルノ權利アリ

第三債務者ハ其執行ニ參加スル或ル債權者ノ求ニ因リ亦債務額ヲ裁判所ニ寄託スルノ義務アリ

第三債務者ハ債務額ノ寄託ヲ為スニ際シ其現状ヲ裁判所ニ届出テ且其送達セラレタル差押命令書ヲ差出ス可シ

第六百二條　有體動產又ハ有價證券ノ引渡又ハ給付ニ關スル債權カ數名ノ債權者ノ為メ差押ヘラレタル片ハ第三債務者ハ最初ニ差押ヲ為シタル執達吏ニ其物又ハ有價證券ヲ引渡スノ權利アリ

第三債務者ハ其執行ニ參加スル或ル債權者ノ求ニ因リ亦有體動產又ハ有價證券ヲ引渡スノ義務アリ

第三債務者ハ有體動產又ハ有價證券ノ引渡ヲ為スニ際シ其現状ヲ執達吏ニ届出テ且其送達セラレタル差押命令書ヲ之ニ渡ス可シ

第五百七十七條第二項第三項ノ規定ハ執行裁判所ヲ最初ニ差押命令書ヲ發シタル區裁判所ニ變更シ~~ヲ加~~テ本條ニモ亦之ヲ適用ス

独第七百五十二

第六百三條 請求カ不動産ニ關スル片ハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命スル保管人ニ現状ヲ届出テ且送達ヲ受ケタル差押命令書ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡スノ權利ヲ有シ又請求ヲ轉付セラレタル債~~務~~權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡スノ義務アリ

[illegible] 独第七百五十三

第六百四條 第三債務者カ前三條ノ場合ニ於テ其負フタル~~債~~義務ヲ履行セサル片ハ請求ノ轉付ヲ受ケタル各債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルヿヲ得執行ニ參カル各債權者ハ共同爭訟人トシテ原告ニ加ハ、ルノ權利アリ

訴ヘラレタル第三債務者ハ訴ヲ起サス且共同爭訟人トシテ原告ニ加ハ、ラサル債權者ヲ遅クモ口頭辯論ノ第一期日ニ原告ニ指名スルコトヲ要ス裁判所ハ右債權者ヲ共同爭訟人トシテ訴訟ノ續ニ立會ハシム此カ為メ為シタル裁判ハ總債權者ノ為メ及ヒ總債權者ニ對シ効力アリ然レ𪜈第三債務者カ執行ニ參カル債權者ヲ指名スルノ義務ヲ怠リタル片ハ他ノ執行ニ參カル債權者ニ對シテ得タル利益アル裁判ヲ以テ右ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

[illegible] 独第七百五十四

第六百五條 第五百七十八條ニ掲ケタル以外ノ財産權ノ差押ニ付テハ其財産權カ不動産

ニ對スル強制執行ノ目的物タラサル片ニ限リ此款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ノ有ラサル片ハ差押ハ債務者ニ處分權行用ノ禁止書ヲ送達シタル時日ヲ以テ爲シタルモノト看做ス。

裁判所ハ差押ヘラレタル權利ヲ換價スル爲メ其場合ノ情況ニ從ヒ必要ナル特別ノ命ヲ債權者ノ申立ニ因リ發ス可シ

裁判所ハ右ノ目的ノ爲メ殊ニ收益權ニ付テハ其權利ノ管理ヲ命シ又ハ其權利ノ移付ヲ許ス。可キ片ハ其移付ヲモ命シ且其移付ハ又執達吏~~ニ委任ス~~ヲシテ之ヲ賣却サシムルヿヲ得

第四。款　分配手續

（旧第七百十四　獨第七百五十八）

第六百六條　分配手續ハ動產ニ對スル強制執行ニ際シ裁判所ニ預ケタル金額又ハ有價證券ノ賣却ニ因リ得タル金額カ執行ニ參加ル債權者ニ辨償スルニ足ラサル片之ヲ爲ス

（旧第七百十五　獨第七百五十九）

第六百七條　裁判所ハ金額又ハ有價證券ノ寄託ニ際シテ差出シタル現狀屆書ニ基キ十四日ノ期間內ニ元金利息、費用及ヒ其他ノ附帶債權ノ計算書ヲ差出ス可キヿヲ執行ニ參加ル各債權者ニ催告ス可シ

（旧第七百十六　獨第七百六十）

第六百八條　十四日ノ期間滿了ノ後裁判所ハ分配表ヲ作ル可シ

分配手續ノ費用額ハ先ツ現在金ヨリ之ヲ扣除ス可シ

四千七百十七
独千七百九十一

十四日ノ期間ヲ遵守セサル債権者ノ債権ハ分配表ヲ作ルニ際シ届書ノ包有事項及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ至リ債権額ヲ補充スルヿハ之ヲ許サス

第六百九條 分配表ニ関スル陳述及ヒ分配実施ノ為メ裁判所ハ期日ヲ指定シ其期日ニハ債権者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在不分明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ為スヿヲ要セス

分配表ハ遅クモ期日ノ三日前ニ當事者ニ閲覧セシムル為メ裁判所書記局ニ之ヲ備置ク可シ

民事訴訟法草案議案第四十二号

（旧第七百十八　獨第七百六十二）
第六百十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ分配表ニ從ヒ其分配ヲ實施ス可シ

（旧第七百十九　獨第七百六十二中）
第六百十一條　異議ノ申立アルトキハ執行ニ參加スル各債權者ハ直ミニ陳述ヲ為ス可シ

當事者カ異議ヲ理由アリト認メ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ此ニ從ヒ分配表ヲ更正シ及ヒ之ヲ實施ス可シ若シ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ受ケサル部分ニ限リ分配ヲ實施ス可シ

（旧第七百二十　獨第七百六十五）
第六百十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ分配表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者

ヨリ起シタル異議ニ關係ヲ有スル片ハ右ノ債權者ハ異議ヲ理由アリト認メサルモノト看做ス

四第七百二十一　独第七百六十四ノ一

第六百十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサル片ハ異議アル債權者ハ~~豫メ催告ヲ受ケ~~~~スシヲ~~執行ニ參カル債權者ニ對シ又訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ十四日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス分配ノ實施ヲ命ス可シ

四第七百二十七　独第七百六十四ノ二

第六百十四條　分配表ニ對シ異議ヲ申立タル債權者ハ前條ノ期間ヲ怠リタル片ト雖モ分配表ニ從ヒ金額ヲ分配セラレタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ其優先權ヲ主張スルノ權利ハ分配實施ノ為メ妨ケラレス

四第七百二十二　独第七百六十五

第六百十五條　異議アル債權者ノ訴ニ付テハ分配裁判所之ヲ管轄ス然レ𪜈爭訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサル片ハ其分配裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所ガ管轄スル片ハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但執行ニ參カル各債權者總テノ異議ニ付キ分配裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタル片ハ此限ニ在ラス

四第七百二十三　独第七百六十六

第六百十六條　異議ニ付キ裁判ヲ為ス判決ニハ分配額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如

何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ適當トセサル片ハ判決ニ於テ新ナル分配表ノ調製及ヒ他ノ分配手續ヲ命ス可シ

旧第七百二十四
独第七百六十七

第六百十七條　若シ異議アル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル片ハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス可キ闕席判決ヲ為ス可シ

旧第七百二十五
独第七百六十八

第六百十八條　前二條ノ判決確定ノ證明アル片ハ分配裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ其他ノ分配手續ヲ命ス

第二節　不動産ニ對スル強制執行

第一款　通則

孛二

第六百十九條　不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ為ス

第一　強制競賣

第二　強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ~~第~~一箇ノ方法ヲ以テ又ハ~~[illegible]~~二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

孛三

第六百二十條　不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

[illegible]

其強制執行ハ申立ニ因リ裁判所之ヲ命ス

孛四

第六百二十一條　強制競賣及ヒ強制管理ノ手續ニ於ケル送達ニ付テハ左ノ成規ニ從フ

第一　當事者カ送達受領ノ為メ代理人ノ任

設ク裁判所ニ届出タル所ハ當事者ノ住所知レタル片ト雖モ其代理人ニ送達ヲ為スヿヲ得

第二　當事者訴訟能力ヲ有セサル場合ニ於テ代理人又ハ其住所カ裁判所ニ知レサル片ハ後見人ヲ掌ル官廳ニ又無形人ニ付テハ其監督廳ニ送達ヲ為スヲ以テ足ル

第三　送達ヲ受ク可キ者執行裁判所ノ所在地ニモ亦其管轄區内ニモ住所ヲ有セサル片ハ送達ハ其所在地ニ於テ假住所ヲ撰定シ裁判所ニ届出ツルマテハ第百四十一條ノ規定ニ從ヒ郵便ニ付シテ之ヲ為ス

第四　當事者ノ住所若クハ其代理人ノ住所ヲ知ルヿヲ得ス又ハ郵便ニ交付シテ為サヽル送達ノ際當事者カ指定ノ住所ニ住セス若クハ死亡シタルヿノ顯ハルヽ片ハ執行裁判所ハ當事者又ハ其承權人ノ為メニ送達ヲ受領スル臨時代人ヲ任シ之ニ送達ヲ為ス可シ但第二号ニ揭ケタル後見ヲ掌ル官廳若クハ~~監督~~管轄廳ニ送達ヲ為スヿヲ得サル片ニ限ル

第五　郵便ニ交付シテ送達ヲ為シタル後郵便物カ届カスシテ差戾サレタル片ハ執行裁判所ハ送達ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ届出ニ因リ當事者又ハ承權人ノ為メ送達ヲ受領スル臨時代人ヲ任シ且差戾サレタ

ル郵便物ヲ之ニ交付ス可シ

第六　當事者又ハ其法律上代人ヲ探知シテ之ニ送達ヲ為シ得ルニ至ルマテ總テノ送達ハ第四號及ヒ第五號ノ成規ニ從ヒ任セラレタル代理人ニ之ヲ為ス

卆四

第六百二十二條　前條第四號及ヒ第五號ノ成規ニ從ヒ任セラレタル代理人ハ當事者ヲ探知シ及ヒ之ニ通知ヲ為スノ義務アリ又其代理人ハ當事者ヨリ立替金ノ辨償ヲ受クルノ外其行為ニ付キ裁判所ノ定ム可キ報酬ヲ受クルノ權利アリ

競賣申債人

前條ノ成規ハ開始決定又ハ加入決定ヲ債務者ニ送達スル場合及ヒ抗告審ニ於テ強制執行手續ニ付キ競落ヲ言渡ス判決書ヲ送達スル場合ニハ之ヲ適用セス

卆十三

第二款　強制競賣

第六百二十三條　強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヲ要ス

第一　債權者債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二　不動産ノ種類

第三　競賣ノ基ク債權及ヒ其債權ニ付キ存スル執行シ得可キ債務名義ノ定マリタル明示

卆十四

第六百二十四條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ記入シ

タル不動產ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二　登記簿ニ記入アラサル不動產ニ付テハ債務者ノ所有タルヿヲ證明ス可キ證書

第三　地所ニ付テハ郡區市町村字番地地目反別若クハ坪數地券面ノ價額ヲ證明ス可キ證書

第四　建物ニ付テハ郡區市町村字番地構造ノ種類建坪ヲ證明ス可キ證書

第二号第三号ノ場合ニ於テハ債權者ハ地所臺帳ヲ管守スル官公廳ニ其證明書ヲ請求スルヿヲ得

第四号ノ場合ニ於テ其證明ヲ為ス能ハサル片ハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ求ムルヿヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ為サシム可シ

不動產カ強制管理ノ為メ既ニ差押ヘラレタル片ハ其執行記録ヲ援用シテ第一号乃至第四号ノ要件ニ換フルヿヲ得

（第十五）

第六百二十五條　既ニ開始シタル競賣手續ニ加入セント欲スル債權者ニ付テハ前二條ノ成規ヲ適用ス然レ片前條ノ證明ハ執行記録ヲ援用シテ之レニ換フルヿヲ得

加入ヲ許サレタル債權者ハ其申立ニ因リ手續ヲ開始シタル~~件ノ如キ~~ト同一ノ權利ヲ有ス

（第十六）

第六百二十六條　競賣手續ノ開始又ハ加入ヲ許ス決定ニハ同時ニ債權者ノ為メ不動產ヲ

未定

差押フルヿヲ宣言ス可シ

差押ハ不動産ニ属スル動産ヲ包含ス但次期ノ收獲マテ農事ヲ續行スルニ必要ナル農産物ヲ除クノ外他ノ農産物及ヒ土地家屋ノ賃金ハ此限ニ在ラス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス

第六百二十七條　債權者ハ差押ニ因リ其不動産ニ付キ抵當權ヲ得取ス

第六百二十八條　債務者ハ債權者カ強制管理ヲ為サシメサル間ハ其不動産ノ使用及ヒ管理ヲ為スヿヲ得

第六百二十九條　權利ヲ得取スル第三者其得

取ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヿヲ知リタル件ハ差押ノ効力ニ對シ其~~衷~~善意ナリシヿヲ主張スルヿヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ基ク債權ノ為メ物上ノ負擔ヲ受~~ク~~ケル件ハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其得取ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヿヲ知ラサル件ト雖モ競賣手續ハ續行ス可シ

競賣申立ノ~~續~~取下ニ依テ差押ハ消滅ス

第六百三十條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ為ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立ヲ登記簿ニ記入ス可キヿヲ登記判事ニ嘱託ス可シ

此記入ヲ為シタル後ハ競賣手續開始ノ申立

又ハ加入ノ許可ハ其申立ヲ為シタルトキニ一般ニ知リタルモノト看做ス

（第十九）第大百三十一條　登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ為シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ且登記簿ニ抵當債權者ノ記入アルトキハ其債權者ノ住所氏名ヲモ通知ス可シ

（第二十）第大百三十二條　登記判事ノ通知ニ依リ豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實~~ア~~カ~~ルリノ~~顯ハルヽトキハ裁判所ハ其場合ノ状況ニ周リ手續ヲ直チニ廢棄シ又ハ債權者ニ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ命ス可シ其期間中ニ必要ナル證明ヲ為サヽルトキハ期間滿了ノ後職權ヲ以テ其手續ヲ廢棄ス可シ

月六日議了

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十六年九月十日

[illegible]

民事訴訟法草案議業第四十三号

旧第七百三十八

第六百三十三條　裁判所ハ差押債権者及ヒ各抵當債権者其他ノ物上権利者ニ對シ差押ノ通知ヲ為ス可シ

旧第七百四十二
仝第四十七

第六百三十四條　差押債権者、各抵當債権者其他ノ物上権利者及ヒ債務者ハ裁判所ヨリ差押ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ十四日ノ期間内ニ適法ナル最低ノ競買價額及ヒ賣却ノ特別條件ニ関シ裁判所ニ申立ヲ為スノ権利アリ

右ノ申立アリタル片ハ裁判所ハ其申立人及ヒ其他ノ當事者ヲ呼出シ其意見ヲ陳述セシム可シ

[illegible]

第六百三十五條　最低ノ競買價額ニ付キ當事者間ニ合意アリタル時ハ其價額ヲ以テ最低ノ競買價額ト定ム若シ合意アラサル時ハ裁判所ハ鑑定人ヲ審訊シタル上其鑑定價額ノ十分ノ七ヲ以テ最低ノ競買價額ト定ム可シ」

第六百三十六條　法律上ノ賣却條件ハ當事者間ニ別段ノ合意アラサル時ハ左ノ如シ

第一　裁判所又ハ差押債權者ハ競賣ニ付キ取調ヘタル不動産ノ坪數及ヒ其他ノ事項ニ付キ責ニ任セスシテ賣却ヲ為ス

第二　登記簿ニ記入ヲ要セスシテ第三者ニ對シ效力アル不動産ノ物上義務ハ賣却ニ因リテ變更ヲ受ケス

第三　競落判決ノ言渡アリタル時ハ競落人ハ代金支拂ニ付テノ責務ノ履行スル條件ヲ以テ其所有權ヲ得取シ且危險及ヒ收益モ同時ニ其競落人ニ移ル

第四　競落人ハ裁判所ノ指定ス可キ期日ニ代金ヲ支拂フ~~ヒ且競落判決ノ言渡ノ日ヨリ支拂ノ日マテノ法律上ノ利息ヲ之ニ付ケ~~可シ若シ其期日ニ支拂ヲ為サヽル時ハ再競賣ニ付テノ費用及ヒ危險ヲ負擔ス可シ」

第五　競落人ハ代金ノ外ニ所有權移轉ノ證印税、登記簿ニ於ケル其所有權記入ノ費用ヲ負擔ス可シ

第六百三十七條　法律上ノ賣却條件ノ外ニ特

別條件ヲ設クルコトハ總當事者ノ承諾ヲ以テノミ之ヲ許ス

[illegible]七百四十六　第二　案第八十六

第六百三十八條　最低ノ競買價額ヲ定ムルコト及ヒ特別ノ賣却條件ヲ設クルコトニ關スル裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ノ中立ハ競落ノ許否ニ關スル判決ニ對シ許シタル上訴ヲ以テノミ之ヲ為スコトヲ得

[illegible]七百四十七　案第三十九

第六百三十九條　裁判所ハ職權ニ依リ公告ヲ以テ競賣期日ヲ定メ及ヒ競落ヲ許ス判決言渡ノ期日ヲ定ム

[illegible]七百四十八　案第四十二　同第四十三

第六百四十條　競賣期日ハ~~共~~公廣告ノ日ヨリ少ナクモ三十日ノ後タルヲ可トシ

其期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ不動産ノ存在スル市町村ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

[illegible]

第六百四十一條　競落ヲ許ス判決ノ言渡期日ハ競賣期日ヨリ七日ノ後タルコトヲ得ス

其期日ハ裁判所内ニ於テ裁判所之ヲ開ク

[illegible]

第六百四十二條　競落期日ノ公告書ニハ左ノ諸件ノ掲ク可シ

第一　不動産ノ表示、其總坪數及ヒ納ム可キ一ヶ年ノ租額

第二　最低ノ競買價額

第三　競賣期日ノ場所並ニ日時及ヒ競賣ヲ為ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住居

第四　競落ヲ許ス判決ヲ言渡ス可キ期日

第五　執行記録ヲ執達吏ニ就キ閲覧シ得ヘキヿ

四百五十一
第六百四十六

第六百四十三條　競賣期日ノ公告ハ正本ヲ左ノ箇所ニ掲示スルヲ以テ之ヲ為ス

第一　裁判所掲示板

第二　不動産ノ存在スル市町村役場ノ掲示板

公告ハ尚ホ裁判所ノ意見ニ従ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルヿヲ~~以テモ亦之ヲ為スヿ~~ヲ得

四百五十二
第六百四十七
二項

第六百四十四條　差押債権者、各抵當債権者其他ノ物上權利者及ヒ債務者ハ公告書ノ正本ノ送達ヲ以テ競賣期日ニ之ヲ呼出ス可シ

四百五十五
第六百五十二

第六百四十五條　競賣期日ハ執達吏、執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シ且最低ノ競買價額及ヒ賣却條件ヲ告知シテ之ヲ開始ス

~~其後ニ至リ競買價額ノ申出ヲ催告ス可シ~~

四百五十六
第六百六十二

第六百四十六條　差押債権者、抵當債権者其他ノ物上權利者又ハ債務者カ或競買人ニ對シ異議ヲ申立テタル片ハ其競買人ノ許スヿヲ得ス又其競買價額ヲ顧ミルヿヲ得ス但競買人カ其競買ノ保證トシテ競買價額十分一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預ケタル片ハ此限ニ在ラス

第六百六十三
第一項

異議ハ競買價額ノ申立アリタル後直チニ之ヲ述フルヿヲ要ス其異議ハ同一ナル競買人

ノ其後ノ競買價額ニ付テモ亦効力ヲ有ス

（旧第七百五十八　草第六十六）

第六百四十七條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買カ許サルヽマテ其價額ニ拘束セラル

草第六十八

競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キノ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終結スルヿヲ得ス

（旧第七百六十　草第六十八但書）

第六百四十八條　執達吏ハ競賣ノ終局前何人カ最高競買價額ヲ申出タルニ因リ不動産ノ競落人ト爲リタルヤ及ヒ最高競買價額ノ幾何ナルヤヲ告知ス可シ

草第六十八ノ第二項

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證物ノ即時返還ヲ求ムルノ權利アリ

其後ノ競買ハ之ヲ採用スルヿヲ許サス

旧第七百六十

第六百四十九條　競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルヿノ明示及ヒ最低ノ競買價額並ニ賣却條件ヲ告知シタルヿノ明示

第二　競買價額ノ申出ヲ催告シタル時日ノ明示

第三　總テ許サレタル競買ノ記載及ヒ其競買人ノ氏名住所ノ詳細ナル表示又許サル可キ競買ノ申出テラレサリシ𪜈ハ其旨ノ附記

第四 競買ヲ終結シタル時日ノ明示

第五 競買ニ對シ異議ヲ申立テ且其競買ノ為メ保證ヲ立テタル㕝又ハ保證ヲ立テサル為メ其競買ヲ許サヽル㕝ハ此ニ關スル情況ノ明示

第六 如何ナル人ヲ競落人トシ且如何ナル競買價額ヲ最高ノ競買價額トシテ告知シタルヤノ明示

競落人及ヒ出席シタル差押債權者、各抵當債權者其他ノ物上權利者並ニ債務者ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ終結前ニ退席シタル片ハ其旨ヲ調書ニ明示ス可シ

競買ノ保證ノ為メ預リタル金錢又ハ有價證

券ヲ返還シタル片ハ執達吏ハ受取證書ヲ取ル可シ其受取證書ハ調書ニ添置ク可シ

第七百六十二

第六百五十條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ為メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノヲ遅ク𪜈三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ

第七百六十三

第六百五十一條 競落人及ヒ競落人タルノ告知ヲ受ケサルモ競落ヲ得ルノ權利アリト申立ツル競買人ハ執行裁判所ノ所在地ニ住セサル片ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタル片ハ第六百四十一條第~~三~~四項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ニ記載

セシメテ之ヲ為スコヲ得

四百六十四

第六百五十二條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競其最低競買價額ノ三分一ヲ減少シ新ナル競賣期日ヲ定ム可シ

新ナル競賣期日ハ少ナクモ十五日ノ後タル可シ

若シ再度ノ競賣ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第三回ノ競賣ニ付テハ最低競買價額ノ定ハ其効力ヲ失ヒ且競賣期日ノ公告中ニ競買價額ヲ其多寡ニ均ハラスシテ許ス可キコヲ明記ス可シ

四百六十五

第六百五十三條　債權者ハ競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテハ競賣手續ノ停止ヲ為サシメ又ハ之ヲ承諾スルコヲ得

債務者又ハ第三者ハ第五百十三條第五百五十五條第五百三十七條乃至第五百三十九條ノ場合ニ於テ其手續ヲ停止セシムルコヲ得

四百六十六

第六百五十四條　執達吏ハ競賣手續ヲ停止ス可キトキハ其原由タル情況ニ付キ執行裁判所ニ報告ヲ為ス可シ

裁判所ハ既ニ競賣期日ヲ公告シタルトキハ期日ヲ取消シ其旨ヲ期日ニ呼出シタル利害関係人ニ通知シ且~~裁判所掲示板ニ掲示ヲ為シテ期日ノ取消ヲ公告シ又適當トスル場合ニ於テハ新聞紙ニ掲載シテ公告ス可シ~~第六百四十三条ノ規定ニ従ヒ公告ヲ為ス可シ

第六百五十五條　各競買人ハ競賣手續ノ停止ヲ以テ其競買ノ責務ヲ免カル

若シ競賣期日ヲ開始セス又ハ其期日ニ開始シタル競賣行爲ヲ止メタルトキ又ハ期日取消ノ公告ヲ爲シタルトキハ競賣手續ハ之ヲ停止シタルモノト看做ス

四月十二日確了

民事訴訟法草案議案第四十三号修正理由

第六百三十三條　不動産强制執行修正ノ理由ニ開陳シタルト同一ノ理由ナリ

第六百三十四條　各抵當債權者ノ下ニ其他ノ物上權利者ノ八字ヲ加ヘタルハ各抵當債權者ノミニテハ不備ナルカ故ナリ執達吏ノ三字ヲ裁判所ト修正シ又ハ以下二十四字ヲ削リタルハ不動産ノ差押ハ裁判所ニ於テ爲スコトニ修正シタル結果ナリ其他ハ文章ノ修正ニ過キス

第六百三十五條　旧案第七百四十三條三項以下ヲ修正シ更ニ條ヲ分ツテ本條ト爲シタルハ前條第二項ニ依リ裁判所ヨリ當事者ヲ呼
ノ

出シ其意見ヲ陳述セシメタル𬼀ト否トニ拘ラス當事者間ニ合意アリタル𬼀ハ其價額ヲ以テ最低價額ト定ムルノ意ヲ示サンカ為メナリ若シ條ヲ分タスシテ前條ノ三項ト為ス𬼀ハ裁判所ヨリ當事者ニ意見ヲ陳述セシメタル場合當事者間ニ合意アリタル𬼀ノミヲ示シタルモノト解釈セサルヘカラス然ル𬼀ハ裁判所ヨリ當事者ニ意見ヲ陳述セシメサル以前當事者間ニ最低價額ノ合意アリタル場合ヲ尚ホ別條ニ定メサル可カラス是ヲ以テ旧條ヲ分ツテ二條ト為シ廣ク當事者間ニ合意アリタル場合ヲ掲ケタルナリ旧第七百四十三條四項ヲ削リタルハ「シェルツェンスタイン」氏ノ意見ヲ参酌シ旧第七百四十四條二項ヲ修正シ本條ノ二項ト為シタルカ故ナリ

旧第七百四十四條ヲ削リ本條ノ二項ト為シタルハ旧案ニテハ最低ノ競賣價額ヲ定ムルニハ課税ノ為メ許定シタル價額ト定メタレ𪜈不動産中課税ノ為メニ許定シタル價額アルモノハ地所ノミニシテ家屋ニ此許定價額アルヿナシ且地所ニ付テハ右ノ許定價額アルモ僻遠ノ地ニ在テハ実際ノ賣買代價下落シテ課税ノ為メ許定シタル價額ヲ以テ今日賣買ヲ為スモノナシ故ニ此規定ヲ存スルヨリモ寧ロ第二項ノ如ク鑑定人ヲシテ鑑定セシメ其鑑定價額ノ幾分ヲ以テ最低價額ト定

ムルヲ優レリトス是旧第七百四十四條ヲ修正シ本條ノ第二項ト為シタル所以ナリ

第六百三十六條

本條第一号中明示セラレタルノ七字及ヒ不動産ノ表示云々ノ十八字ヲ削リ競賣ニ付取調ヘタルノ九字ヲ加ヘタルハ不動産ノ差押ハ裁判所ニ於テ之ヲ為スヿニ改メタル結果ナリ第二号ノ修正ハ文意ヲ明ラカニシタルニ過キス第三号裁判上ノ四字ハ必要ナラサルヲ以テ之ヲ削ル決定ヲ判決ト改メタルハ我國ニ於テモ競落ノ言渡ハ決定ヲ以テセスシテ判決ヲ以テス可キ規定ニ有之本邦ニ於テモ此言渡ハ判決ヲ以テ為ス可キヲ相當ト思考シタルカ故ナリ又第四号中自己ノ以下避クル為メ迄三十二字ヲ、リ若シ以下三十四字ヲ加ヘタルハ文意ヲ明ラカニシタルニ過キス又第五地所帳ヲ登記簿ニ改メ及ヒ以下ノ十六字ヲ削リタルハ登記法ニ於テハ登記簿ノミニテ其他ノ簿冊ナキカ故ナリ

第六百三十七條

其他ノ適法ナル云々又ハ迄二十一字ヲ削リタルハ旧第七百四十四條ヲ新第六百三十五條ノ如ク修正シタルカ故ナリ又「ト雖モ云々許サス迄三十一字ヲ削リタルハ旧第七百四十五條即チ新第六百三十六條ニ當事者間ニ別段ノ合意アラサル片ハ左ノ如シトアルニ抵觸スルノ嫌アルカ故ナリ

セヲ再説スレハ新第六百三十六條ニ別段ノ合意アラサルトキハ左ノ如シトアルヲ視レハ別段ノ合意アル場合ニ於テハ該條規定外ノ方法ヲ以テ賣却條件ヲ定メ得ルモノト云ハサルヘカラス然ルニ本條ニ於テ法律上ノ賣却條件ト抵觸スル賣却條件ハ之ヲ設クルヿヲ得スト云フトキハ合意上ノ特別條件ト雖モ法律上ノ賣却條件ト異ナル方法ヲ用フルヿヲ許サヽルニ因リ新第六百三十六條ノ別段ノ合意アラサルトキハトアルハ如何ナル旨趣ナルカ之ヲ解スル能ハス到底新第六百三十六條ニ謂フ所ノ別段ノ合意云々ノ欠詞ヲ削ルカ若クハ本條ノト雖モ云々ノ欠詞ヲ削ルカノ一ヲ取ラサルヘカラス然ルニ合意上特別條件ヲ定ムルニ當リ法律上ノ賣却條件ト異ナル方法ヲ禁シタルハ甚関渉ニ過キタリト云フ可シ故ニト雖モ以下ヲ削リタルナリ

第六百三十八條　本條ハ旧第七百四十六條ノ第二項ナリシヲ別條ト為シタルナリ其故ハ旧第七百四十六條ノ一項ト二項トハ全ク異ナル規定ニ係ルヲ以テナリ

第六百三十九條　ヿニ関スルノ五字ヲ削リタルハ意味廣キニ過クルノ恐アルカ故ナリ決定ヲ判決ト修正シタルハ第六百三十六條ノ説明ニ同シ

第六百四十條　戸長又ハ區長立會ノ上ノ十字

ヲ削リタルハ區戸長ノ立會ヲ必要トセサルノミナラス區戸長ニ此立會ノ義務ヲ負ハシムヘカラサルカ故ナリ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハノ十五字ヲ加ヘタルハ裁判所ノ意見ニ依リ或ハ裁判所内ニ於テスルヲ便利ト為スヿアル可キヲ以テナリ

第六百四十一條　ヿニ関スルノ四字ヲ削リ決定ノ二字ヲ判決ニ改メタルハ第六百三十九條修正ノ理由ト同一ナリ

第六百四十二條　第一号中課税ノ為メ云々ノ十六字ヲ削リタルハ旧第七百四什四條ヲ修正シタル結果ナリ第五号ヲ修正シタルハ差押ハ裁判所ニ於テ為スヲ以テ執達吏カ差押調書ヲ作ルヿナシ故ニ執行記録ヲ執達吏ニ就キ閲覧シ得ヘキヿト修正ス（第六百四十五條参看）其他ハ前例ニ依リ修正シタルニ過キ
キ

第六百四十三條　旧案第三号ヲ削リタルハ不動産中家屋ヲ競賣スルニハ其家屋ニ競賣期日ノ公告書ヲ掲示スルヲ得ヘシト雖モ地所ニ付テハ其地所ニ掲示スルヿヲ得ス且不動産ノ存在スル市町村役場ノ掲示板ニ掲示シテ十分ナル可キヲ以テ削除シタルナリ旧案第四号ヲ削リタルハ東京府下日本橋掲示場ノ如キハ裁判所ノ掲示板トアル内ニ包含ス可キヲ以テナリ第三項ヲ削リタルハ誤差押及

ヲ

ト競賣ハ裁判所ニ於テ爲スヲ以テ裁判所書記ヲシテ斡旋セシムルヲ相當トス而シテ此等ハ裁判所書記ノ職務章程ニ定ムルヲ以テ足レリトスルヿナレハ旁之ヲ削除シタルナリ旧案第五項ヲ削リタルハ裁判所ニ於テ公告スル上ハ別ニ利害関係ヲ有スル者自己ノ費用ヲ以テ公告スルノ必要ヲ視サルカ故ナリ

第六百四十四條　其他ノ物上権利者ノ八字ヲ加ヘタルハ不備ヲ補フタルナリ

第六百四十五條　差押調書ヲ執行記録ト改メタルハ第六百四十二條修正ノ理由ニ同シ又高聲朗讀ニ因リテ適法ナルノ十一字及ヒ法律上ノ賣却條件云々ノ十三字ヲ削リタルハ文章ノ修正ニ過キス旧案第三項ヲ削リタルハ最低ノ競買價額ニ達セサル競買價額又ハ賣却條件ニ適セサル競買價額ノ申出ヲ顧ミサルハ勿論ナルノミナラス旧第七百六十四條ノ定メアルヲ以テ旁此明文ヲ要セサルナリ故ニ之ヲ削除シタルナリ

第六百四十六條　特別ノ賣却條件云々非サレハノ二十二字ヲ削リタルハ必要ノ文詞ニアラサルカ故ナリ

第六百四十七條　旧案第一項ヲ削リタルハ第六百四十五條ニ於テ競賣期日ヲ開始スル方法ヲ示シタルニ因リ茲ニ不要ナルカ故ナリ

第六百四十八條　競賣ノ終局前ノ六字ヲ加ヘタルハ諛告知ハ終局前ニ為スヲ必要トスルカ故ナリ

第六百四十九條　旧案第三号第四号中ノ口頭ノ二字及ヒ第五ヲ削リタルハ旧案ハ第七百五十四條ヲ以テ競買書ヲ差出シ得ノ手續ヲ定メタリシ故口頭ノ大字必要ナリシモ旧第七百五十四條ニ付テハ「ユルツエンフメイン」氏ノ意見モアリ且書面競買即チ入札拂ニ付テハ種々ノ弊害アルノミナラス到底諛方法ハ債務者ノ不利益ニ帰ス可キヲ以テ旁諛条ヲ削リタリ故ニ本條ニ於テモ口頭ノ二字及ヒ第二項口頭ノ競賣云々ノ字ヲ削リタルナリ

附言競賣ハ競買人口頭ヲ以テ代價ヲ申出ルニ依リ他ノ競買人之ヲ聞テ代價ヲ競上クルノ益アリト雖モ書面ノ入札ハ他ノ者ニ於テ幾許ノ代價ヲ申出タルヤヲ知ラサルニ付代價ヲ競上クルヿナシ故ニ到底入札拂ハ債務者ノ不利益ト看做サヽルヘカラス

第六百五十條　文章ヲ修正シタルノミナリ

第六百五十一條　又ハ差出シタル云々ノ十八字ヲ削リタルハ旧第七百五十四條ヲ削リタル結果ナリ其他ハ前例ニ倣ヒ修正ス

第六百五十二條　修正ノ理由前條ニ同シ

第六百五十三條　文章ノ修正ニ過キス

14

第六百五十四條　前同断

第六百五十五條　前同断

本十三日本件會議ニ於
民事訴訟法ノ[illegible]議按議按第
四百四條ー[illegible]
[illegible]可決セリ
明治廿一年九月十三日
法律取調報告委員

民事訴訟法草案議案第四十四号

[illegible]

第六百五十六條　差押債權者停止シタル競賣手續ノ繼續ヲ裁判所ニ申立裁判所其求ヲ理由アリトスルトキハ競賣期日ノ指定ノ為メ必要ナル處分ヲ為ス可シ

[illegible]

第六百五十七條　競賣手續ハ差押債權者ノ求又ハ承諾ニ基キ一回ニ限リ三十日ヲ過キサル期間之ヲ停止スルコトヲ得若シ差押債權者カ競賣手續ノ停止後三十日ノ期間内ニ其繼續ヲ申立サルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ差押ノ廢棄ヲ命ス可シ

[illegible]

第六百五十八條　競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテ競賣手續ヲ繼續シタ

ルトキハ裁判所ハ競落言渡期日ニ當事者ヲ審訊シ判決ヲ以テ競落ノ許否ニ付キ裁判ヲ為スヘシ

旧第七百七十一

第六百五十九條 差押債權者各抵當債權者其他ノ物上權利者及ヒ債務者ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ違背アリタルトキハ言渡期日ニ於テ競落ヲ許スヿニ付キ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

又左ノ者ハ右ト同一ノ理由ニ因リ言渡期日ニ於テ異議ヲ申立ツルヿヲ得

第一 告知セラレタル競落人ハ競落人トシテ告知セラルヽノ理由ナキ旨ヲ主張シテ競落ニ對シ異議ヲ申立ツルヿヲ得

第二 他ノ各競買人ハ競落人トシテ告知セラル可キノ理由アル旨ヲ主張シテ競落ヲ求メンカ為メ異議ヲ申立ツルヿヲ得

又裁判所ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ違背ヲ職權ヲ以テ視察ス可シ

言渡期日ニ於テ為シタル事項ニ付テハ第百二十八條以下ノ規定ニ從ヒ調書ヲ作ル可シ

若シ其期日ニ於テ裁判ヲ為スヿヲ得サルトキハ更ニ期日ヲ定メ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ

旧第七百七十二

第六百六十條 若シ不動產カ其全部ニ於テ又ハ名箇ノ成立部分又ハ附屬物ニ於テ競賣ノ時ト競落ノ許否ニ關スル判決ノ言渡期日ト

全部又ハ一部ニ於テ

ノ間ニ天災又ハ其他ノ事變ニ因リ著シク價額ノ減少ヲ受ケタルトキハ告知セラレタル競落人ハ其競買ヲ取消スノ權利アリ

價額ノ減少カ著シキモノナルヤ否ハ裁判所之ニ關スル情況ヲ斟酌シテ之ヲ定メ又適當トスル場合ニ於テハ檢證ヲ為シ又ハ鑑定人ヲ審訊シタル後之ヲ定ム可シ

第六百六十一條　競落ヲ許ス判決書ニハ競賣ヲ為シタル不動產、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ揭ケ又其競落ヲ特別ノ賣却條件ヲ以テ為シタルトキハ其條件ヲモ揭ク可シ」

競落ヲ許サヽル判~~定~~決書ニ於テハ不動產ノ再度ノ競賣ヲモ命ス可シ

其判決ハ之ヲ言渡スノ外尚ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百六十二條　差押債權者、各抵當債權者其他ノ物上權利者及ヒ債務者ハ競落ノ許否ニ關スル判決ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其判決ニ對シ即時抗告ヲ為スノ權利アリ

又左ニ揭クル者ハ即時抗告ヲ為スノ權利アリ

第一　競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ判決書ニ揭ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人

第二　競落ヲ請求シ且其競落ヲ許ス可キコ

ヲ主張スル競買人

競落ヲ許サヽルヿニ關スル抗告ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ遵背ナキヿノミヲ以テ理由トシ又競落ヲ許シタルヿニ關スル抗告ハ此ノ如キ違背アルヿノミヲ以テ理由トスルヿヲ得

第六百六十條ノ場合ニ於テハ右抗告理由ノ制限ヲ適用セス

第七百七十五

第六、百六十三條前條ノ抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス執行裁判所ハ其裁判ヲ變更スル權利ナシ

同一ノ判決ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ并合ス可シ

舊第七百七十六
草第九十一

第六百六十四條抗告裁判所ハ反對陳述書ノ差出又ハ口頭辯論ノ為メ當事者ノ呼出ヲ決定シタル場合ニ於テ如何ナル人ヲ抗告者ノ相手方トシテ立會ハシム可キヤヲ定ム

相手方ノ申述ハ第六百六十二條第三項ニ掲ケタル制限ニ從フ

第六百五十九條第三項及ヒ第六百六十二條第四項ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ適用ス

舊第七百七十七
草第九十三第一項

第六百六十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ変更シテ事件ニ付キ裁判ス可シ

競落ヲ許サヽル判決ヲ廢棄シテ別ニ競落ヲ許サヽルトキハ其裁判ニ於テ不動産ノ再度ノ

競賣ヲモ命ス可シ

旧第七百七十八

第六百六十六條　不動産ノ最低競買價額カ五百圓以上ナルトキハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ更ニ抗告ヲ為スコトヲ得

旧第七百七十九
宗第九十七

第六百六十七條　抗告ニ關スル裁判書ハ抗告者及ヒ其立會ヒタル相手方ニ之ヲ送達シ又執行裁判所ノ判決ヲ變更シ又ハ廢棄シタルトキハ~~其~~執行裁判所ハ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ

旧第七百八十

第六百六十八條　競落ヲ許サヽルコトノ確定ト為リタルトキハ告知セラレタル競落人及ヒ競落ヲ求メタル他ノ各競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

三宗第七十九第

新ナル競賣期日ハ少ナクトモ十五日ノ後タル可シ

宗第七十九

第六百六十條ノ場合ニ於テ競賣取消ノ為メ競落ヲ許サヽルトキハ裁判所ハ新ナル競賣期日ヲ指定スル前ニ職權ヲ以テ當事者總員ヲ呼出シタル上更ニ最低ノ競買價額ヲ定ムルコトニ付キ意見ヲ陳述セシム可シ若シ其合意成ラサルトキハ裁判所ハ不動産ノ受ケタル價額ノ減少ニ準據シテ最低競買價額ヲ定ム可シ

旧第七百八十一

第六百六十九條　競落ヲ許スコトノ確定ト為リタルトキハ不動産賣却代金ノ全額内ヨリ[illegible]ニ掲クル順序ヲ以テ濟清ス可シ

[illegible]第二十五ノ四
[illegible]第二十四
[illegible]第二十五
[illegible]第二十九
[illegible]第三十 [illegible]第三十九

削ル

第一　不動産ノ負擔ニ係ル國税、地方税及ヒ
市町村税ノ滞納額
第二　不動産ノ競落マテ繼續シタル強制管
理ニ付キ差押債権者カ其不動産ノ保存及
ヒ必要ナル修繕ノ為メ為シタル総テノ出
費
第三　不動産ノ管理ノ為メニ置キタル雇人
ノ給料、食料其他ノ報酬
第四　第三者ニ對シ効力ヲ有スル物上權ニ
付テノ要求額
第五　差押ノ當時不動産ニ付キ抵當権ヲ記
入シタル債権者ノ元金及ヒ利息
第六　差押債権者ノ債権ノ元金並ニ利息及

[illegible]第三十八
[illegible]第七百八十二
[illegible]第百一

ヒ債務者ヨリ其債権者ニ辨償ス可キ訴訟
費用並ニ強制執行ノ費用
數名ノ抵當債権者ノ債権ハ記入ノ順序ニ従
ヒ之ヲ濟清ス
同一ノ順位ニ在ル可キ数箇ノ債権ハ賣却代
金全額ノ不足ナル場合ニ於テハ債権額ノ割
合ニ應シ平等ニ之ヲ濟清ス可シ
第六百七十條　代金ノ支拂及ヒ分配ハ競落ヲ
許スノ確定ト為リタル後職権ヲ以テ定ム
可キ期日ニ於テ之ヲ為ス
其期日ニハ差押債権者、各抵當債権者其他ノ
物上權利者、債務者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ
債権者カ債務者ニ屬ス可キ代金ノ残額ニ付

キ差押ヲ為シ強制競賣ノ手續ニ關スル記録ニ編入スル為メ差押債權者ヨリ裁判所ニ差出シタル𪜈ハ其債權者ヲモ亦代金支拂及ヒ分配ノ期日ニ立會ハシムル可シ

又其期日ハ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ但掲示ノ日ト期日トノ間ニハ七日ノ期間ヲ存ス可シ

若シ不動産ノ強制管理ヲ開始シ之ヲ競落マテ継續シタル𪜈ハ收入剰餘額ヲ期日ニ拂込マシムル處分ヲ為ス可シ

四千七百八十三
七千百二

第六百七十一條　期日ニ於テハ先ツ分配ス可キ不動産ノ賣却代金全額ノ幾何ナルヤヲ定ム可シ

其代金全額ハ左ノ物ヨリ成ル

第一　代金及ヒ競落判決言渡ノ日ヨリ支拂日マテノ法律上ノ利息

第二　不動産ニ付キ開始シ及ヒ競落マテ継續シタル強制管理ノ收入剰餘額ニシテ代金ニ加フ可キモノ

代金ノ支拂ハ判事ニ之ヲ為ス

最高競買價額ノ保證ノ為メ預カリタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百七十二條　判事ハ出頭シタル當事者ヲ審訊シタル後裁判所書記ノ立會ヲ以テ分配表ヲ作成ス

判事ハ期日前ニ分配表ヲ起草スルヿヲ得其

分配表ハ必要ナル場合ニ於テハ出頭シタル當事者ノ陳述ニ因リテ之ヲ補充ス可シ

四百八十五
第六百五

第六百七十三條　分配表ハ出頭シタル當事者總員一致シタル𬼂ハ其一致ニ因リ之ヲ作リ然ラサル場合ニ於テハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ル可シ

分配表ニハ差押債權者ノ債權ノ元金利息費用抵當債權者ノ債權ノ元金利息及ヒ物上權ニ付テノ要求額ヲ記載ス可シ

其他ノ債權ハ届出ニ基キテノミ之ヲ記載ス

其届出ハ期日前ニ書面ヲ以テ之ヲ為シ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ陳述スルヿヲ得然レ𪜈届出人カ期日ニ出頭セサル𬼂ハ其届出ヲ顧ミス

四百八十六
第六百十三

第六百七十四條　分配表ニ付テハ即時ニ辯論ヲ為ス可シ

其辯論異議ノ究結及ヒ分配表ノ實施ニ付テハ~~動産ニ對スル強制執行ニ於ケル分配手續~~~~關スル成規ヲ準用ス~~第六百二條以下但下ノ~~數條ニ於テ別段~~ノ規定ヲ準用ス~~設ケタルハ~~
~~此限ニ在ラス~~

四百八十七

第六百七十五條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ為メ主張スル順位ニ對シ異議ノ申立ツルノ權利アリ

出頭シタル差押債權者各抵當債權者其他ノ物上權利者ハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一

ノ権利アリ

執行スルヲ得可キ債権ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百三十五條、第五百三十七條及ヒ第五百三十八條ノ規定ニ従ヒ之ヲ完結ス

登記簿ニ記入セサル債権ニ對シ異議ノ申立アリタル片ハ其債権ヲ届出テタル者ハ異議ヲ完結スル為メ原告ト為リ且特ニ定メラレタル期間内ニ異議アル債権者ニ對シ其債権及ヒ債権ノ為メ主張シタル順位ノ認諾ニ付キ訴ヲ起シタルヿヲ證ス可シ

債務者、差押債権者、抵當債権者又ハ其他ノ物上権利者ニ非サル第三者ヨリ申立テタル異議ハ其申立人カ賣却代金ニ對スル請求権

ヲ疏明セサル片ハ分配表ノ實施ヲ止メス

四百七十八

第六百七十六條　分配表ノ實施ニ付テハ左ノ特別ノ規定ニ従フ可シ

[illegible]百十六

第一　未タ辨濟期限ニ至ラサル債権ハ既ニ辨濟期限ニ至リタルモノト看做ス可シ

第二　競落人ハ抵當債務ノ額カ買入代金ノ額ニ満ツル限リハ関係債権者ノ承諾ヲ得テ其抵當債務ヲ買入代金トシテ引受クルヿヲ得若シ差押債権者競落人ナル片ハ其債権カ買入代金ノ額ニ満ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ改算スルニ因リテ消滅ス然レ𪜈引受ク可キ抵當債権又ハ改算ス可キ競落人ノ債権カ適法ナル異議ヲ受ケタ

九月十三日議了

ルトキハ之ニ相當スル代金ノ一分ヲ現拂シ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第三　若シ剩餘ヲ生スルトキハ其剩餘ハ債務者ニ屬ス然レトモ其剩餘カ債權者ノ爲メ既ニ差押ヘラレタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十七條　分配表ヲ實施シタル後裁判所ハ分配調書及ヒ競落判決ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ記入及ヒ總テ競落人ノ引受ケサル抵當債務并ニ物上義務ノ取消

第二　差押記入ノ取消

競落人ノ引受ケタル抵當債權及ヒ其他ノ物上權利ハ變更スルコト無クシテ之ヲ差置ク可シ

民事訴訟法草案議案第四十四号修正ノ理由

第六百五十六條　執達吏ニ委任云々報告ヲ爲シノ三十字ヲ削リ裁判所ニ申立ト改メタルハ不動產ノ強制執行ニ付開陳シタル理由ニ依ル

第六百五十七條　執達吏ハ云々届出テノ十四字ヲ削リタルハ前條ト同一ノ理由ナリ同時ニ差押ノ廢棄ナキトキハノ十二字ヲ削リタルハ差押ノ手續ヲ廢棄スルニ於テハ期間ノ停止ニ關セサルコト勿論ナルカ故ナリ

第六百五十八條　本條ノ修正ハ法文ヲ明ラカニシタルニ過キス

第六百五十九條　其他ノ物上權利者ノ八字ヲ

加ヘタルハ不備ヲ補フタルナリ其他ハ文章ヲ修正シタルノミナリ

第六百六十條　判定ヲ判決ト改メタルハ前ニ修正シタルカ故ナリ

第六百六十一條　修正ノ理由前條ニ同シ

第六百六十二條　其他ノ物上権利者ノ八字ヲ加ヘタルハ第六百五十九條ノ理由ト同一ナリ抗告ノ上ニ即時ノ二字ヲ加ヘタルハ次條ヲ修正シタルカ故ナリ其他ハ文章ノ修正ニ過キス

第六百六十三條　即時抗告ノ期間ニ付テハ第四編第三章ニ新條ヲ設ケ之ヲ定メタルニ依リ判定ノ言渡云々拘束セラレノ二十四字ヲ

削ル

第六百六十四條　修正ナシ

第六百六十五條　文章ノ修正ニ過キス

第六百六十六條　旧案中又適法ナルハ云々標準トスマテノ三十五字ヲ削リタルハ第六百三十五條ヲ修正シタル結果ナリ

第六百六十七條　判定ヲ裁判又ハ判決ト改メタルハ第六百三十六條修正ノ理由ニ同シ

第六百六十八條　文章ノ修正ニ過キス

第六百六十九條　第四号ヲ新タニ加ヘタルハ不備ヲ補フタルナリ其他ノ修正ハ法文ノ意味ヲ明ラカニシタルニ過キス

第六百七十條　其他ノ物上権利者ノ八字ヲ加

ヘタルハ不備ヲ補フタルナリ其他ノ修正ハ前例ニ依ル

第六百七十一條　前例ニ依リタルナリ

第六百七十二條　修正ノ理由前條ニ同シ

第六百七十三條　第二項中及ヒ差押調書云々ノ十四字ヲ削リタルハ旧案第七百三十七條ヲ削リタル結果ナリ及ヒ物上権ニ付テノ要求額ノ十二字ヲ加ヘタルハ第六百六十九條中第四号ヲ新タニ加ヘタル結果ナリ其他ノ修正ハ文章ノ修正ニ過キス

第六百七十四條　案ノ字ヲ表ノ字ニ改メタルノミナリ

第六百七十五條　其他ノ物上権利者ノ八字ノ

加ヘタルハ第六百七十條ノ理由ニ同シ其他ノ修正ハ文章ノ修正ニ過キス

第六百七十六條　文章ノ修正ニ過キス

第六百七十七條　第一項三項四項ノ修正シタル所以ハ不動産強制執行修正ノ理由中ニ開陳シタルト同一ノ理由ナリ

民事訴訟法草案議案第四十四号修正ノ理由

第六百五十六條　執達吏ニ委任云々報告ノ為シノ三十字ヲ削リ裁判所ニ申立ト改メタルハ不動産ノ強制執行ニ付開陳シタル理由ニ依ル

第六百五十七條　執達吏ハ云々届出テノ十四字ヲ削リタルハ前條ト同一ノ理由ナリ同時ニ差押ノ廃棄ナキ時ハノ十二字ヲ削リタルハ差押ノ手續ヲ廃棄スルニ於テハ期間ノ停止ニ関セサルヿ勿論ナルカ故ナリ

第六百五十八條　本條ノ修正ハ法文ヲ明ラカニシタルニ過キス

第六百五十九條　其他ノ物上權利者ノ八字ヲ

加ヘタルハ不備ヲ補ノタルノリ其他ハ文章ヲ修正シタルノミナリ

第六百六十條判定ヲ判決ト改メタルハ前ニ修正シタルカ故ナリ

第六百六十一條修正ノ理由前條ニ同シ

第六百六十二條其他ノ物上権利者ノ八字ヲ加ヘタルハ第六百五十九條ノ理由ト同一ナリ抗告ノ上ニ即時ノ二字ヲ加ヘタルハ次條ヲ修正シタルカ故ナリ其他ハ文章ノ修正ニ過キス

第六百六十三條即時抗告ノ期間ニ付テハ第四編第三章ニ新條ヲ設ケ之ヲ定メタルニ依リ判定ノ言渡云々拘束セラレノ二十四字ヲ削ル

第六百六十四條修正ナシ

第六百六十五條文章ノ修正ニ過キス

第六百六十六條旧案中又適法ナル云々標準トスマテノ三十五字ヲ削リタルハ第六百三十五條ヲ修正シタル結果ナリ

第六百六十七條判定ヲ裁判又ハ判決ト改メタルハ第六百三十六條修正ノ理由ニ同シ

第六百六十八條文章ノ修正ニ過キス

第六百六十九條第四号ヲ新タニ加ヘタルハ不備ヲ補フタルナリ其他ノ修正ハ法文ノ意味ヲ明ラカニシタルニ過キス

第六百七十條其他ノ物上権利者ノ八字ヲ加